UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティー

WINTER
1996

135

愛と救いの異星人交信〈連載第1回〉

イエス出生の謎を透視する/遠藤昭則

UFO目撃体験集〈5名による手記〉

素晴らしい宇宙哲学講義/佐藤　彰

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法

CONTENTS 〈Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness〉

〈巻頭言〉宇宙時代の到来 ―― 1
愛と救いの異星人交信〈連載第1回〉 ―― 久保田八郎 2
〈写真〉カナダ、バンクーバーに出現したUFO ―― 14
イエス出生の謎を透視する ―― 遠藤　昭則 16
GAP短信 ―― 24
科学――SCIENCE ―― 25
〈UFO目撃体験集〉
アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快 ―― 西坂　安信 28
オレンジ色の光体を目撃 ―― 堀下　一郎 29
東京上空の細長い物体 ―― 藤原　敏子 29
多数のアダムスキー型円盤が円形編隊で出現！ ―― 佐藤　史朗 29
不思議な現象を体験 ―― 渡辺　貞 30
UFO雑感 ―― 清水畑　博 32
素晴らしい宇宙哲学講義 ―― 佐藤　彰 33
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法③ ―― ジョージ・アダムスキー 37
UFO contactee バックナンバー主要記事 ―― 44
日本GAPへのご案内 ―― 46
今年度総会、盛況 ―― 47
〈投稿欄〉ユーコン広場 ―― 48
〈広告〉新アダムスキー全集 ―― 50
編集後記 ―― 51
日本GAP全国月例セミナー案内 ―― 52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

素晴らしい会合へどうぞ！

「日本GAP東京月例セミナー」

日本GAP東京本部は下記の要領で毎月月例セミナーを開催しています。久保田会長の「生命の科学」解説講義を主体に会員の講演テレパシー練習、質疑応答などで、きわめて高次元な宇宙的雰囲気に満ちた素晴らしい研究会にご参加下さい。GAP会員外の方でも参加できますのでお気軽にどうぞ。一同あたたかくお迎え致します。

日　時　毎月第1日曜日午後1時→5時。
参加費　¥2,500（終了後別な場所で夕食会。実費）
会　場　都内港区東京タワー前「機械振興会館」6階67号室（本年5月より地下3階から部屋を変更）。詳細は本誌巻末「月例セミナー案内」の東京本部の欄をご参照下さい。

〈表紙写真〉
1990年に米ユタ州で撮影されたUFO。詳細は不明。

©日本GAP

（巻頭言）

宇宙時代の到来

今年八月四日付中京スポーツ紙の報道によれば、米政府はUFOの調査に一〇八〇億円を支出していたという。表面ではUFOの存在を否定しながら、これだけの大金を使うのは、凄い事実をつかんでいるからだと専門家連から指摘されているともいう。

戦後世界的に出現するようになって話題となった未確認飛行物体の調査を米政府が極秘裏に続行してきたことはよく知られていたが、米空軍は調査委員会に資金を供与して一七年間に一万三千人以上のUFO目撃者の体験談を収集した上、NASA（米航空宇宙局）は一九八七年に九千七百万ドル（一〇五億円）を情報収集プロジェクトに出して、宇宙人に関する情報を集めさせたという。以上はアメリカの『スター』誌が徹底的な調査を行なって把握した事実である。

また同誌は最近、アメリカの財閥として名高いローレンス・ロックフェラー氏が友人であるクリントン大統領に宛てた極秘の書簡を入手したが、その内容は「UFOに関して米政府が知っていることをすべて公表すべき時が来たのではないか」というもので、これは世界のトップリーダー達に回覧されたという。

ニューヨークタイムズ紙の記者ハワード・ブルム氏は、次のような政府の二件の重大な秘密を暴露した。それは墜落したUFOを発見して元どおりに復元作業する『ムーン・ダスト』という極秘チームが国防省内に設置されているといい、さらに米政府はUFO調査に支出する予算がばれないようにするために、他の予算に組み込んでいるというのだ。

実際にはこの程度のことはまだ序の口で、もっと凄い秘密が米政府内に隠蔽されていることが研究家間で知られている。特にNASAの陰謀めいた活動に驚くべきものがあると、アメリカのUFO研究家ダニエル・ロス氏がその著書『UFO―宇宙からの完全な証拠』で述べている。

それの一端なのか最近八月七日付の各紙の夕刊は、火星に生命が存在したという大見出しのもとに、火星から地球に飛来した隕石から原始的な生命体が存在した可能性を示す物質が発見されたと大々的に報道した。これもNASAの発表である。ところが翌八日の毎日夕刊によれば、この件でクリントン大統領がこれを裏づける発言をし、米科学界が総力をあげて調査研究を進めるように指示を出した。

ところがここに興味深いニュースが流れてきた。イギリスのブックメーカー（公認の賭け屋）であるウィリアム・ヒル社は八月七日、宇宙人が存在する可能性が高まったとみて、「賭けた時点から向こう一年以内に宇宙人が発見される」とする賭け率を、現在の五〇〇倍から一気に二五倍に引き下げたと発表したのである。これは前記のNASAの火星に微生物が存在していた証拠があるという発表に端を発して「微生物よりも、はるかに劇的な新事実を発表する可能性が充分に出てきたと考えざるを得ない」と指摘して、慌てて〝厳戒態勢〟に入ったことを認めたのだという。

ヒル社といえば賭け屋の大手。CIA顔負けの情報探知網を駆使して調査を行なっているはずだ。それがこんなパニックを起こしたというのは、よほどに確実な情報を摑んだからであろう。面白くなってきたではないか。

数年前に火星探査機マーズオブザーバーが行方不明になったと米政府が発表したけれども、実はこの探査機が火星表面に大文明が存在することをキャッチしたので米政府は驚愕狼狽し、この重大きわまりないインフォメーションを隠蔽するべく、同探査機を行方不明ということにしてこの事実を見事に隠したという情報があったのだ。

つまり米政府は微生物の原始的生命どころか、地球をはるかに凌駕する火星の大文明の存在を知って知りぬいていたのだが、さすがに隠しきれなくなったのか、または大統領選挙でクリントンを有利にする戦略なのか、火星の生命存在をまず微生物の段階から小出しにして人心に恐怖を与えぬようにし、徐々に拡大してアメリカを宇宙探索の大パイオニアーに仕立て上げようとする策略と思われるのである。

それにしても一般社会は大国政府の科学研究機関から〝科学〟の名のもとに出される声明をなんと鵜呑みにすることだろう。初期の金星探査機による探査結果として金星の表面温度を摂氏四八〇度とNASSAが公表したら、大衆はおろか科学者までが文句なしに信じたのである。

人類の進歩に科学ほどに重要なものはないが、この〝科学〟というコトバは悪魔的な武器にもなるのだ。「科学的な調査の結果、UFOや超能力は存在しない」と権威ある学者が一言いえば、それでケリがつくのがこの社会である。地球の科学は全宇宙の森羅万象を解明し尽くすほどのレベルに達しているというのだろうか。

だが失望は禁物。宇宙時代の夜明けは眼前に来ているからだ。今世紀末か来世紀初めには驚天動地の宇宙情報がまず米国あたりから公表されて全くの新時代の幕明けとなることは目に見えている。米政府の火星の生物云々の発表はその新時代の曙光である。楽観的に構えて待つことにしよう。（久）

Warmhearted Communication between Mr. Z and Space People
by Hachiro Kubota

愛と救いの異星人交信〈連載1〉

久保田八郎〈日本GAP会長〉

またも異星人とコンタクトしている人が出現した。日本GAP会員のZ氏（三四歳）。ある地方都市に住むこの人は熱意ある会員であるが、仕事中に重症を負った後、奇跡的に回復してから宇宙的な能力が発現した。それ以来、不思議な現象を体験しながらテレパシーと遠隔透視的な映像により異星人との交信を続けている。綿密な調査の結果、これは病的な幻聴や幻覚または流行りのチャネリング等とは根本的に異なる一種の超能力を駆使した体験であり、厳然たる真実のコンタクトであることが判明した。以下はZ氏から直接聴取した話を筆者がまとめたもので、氏の膨大な実話の始めの部分である。今後しばらく連載の予定。

ブラザーズから体験伝達の許可を得る

これからお話し致しますことは、私の少数の身近な人以外にはほとんど理解して頂けないのですが、私自身は素晴らしい体験だと思っていますので、私が行なっております異星人との超能力によるテレパシー的な交信手段やその実情について多くの人に知ってほしいと思いまして、そのために東京へやってまいりました。

この東京へ出向くこともブラザーズに交信の際に話しましたところ、ブラザーズは「今までのあなた自身の体験について、すべてを話してもかまいません」と許可をされました。これは久保田先生の写真をイメージして彼らに「この方に話そうと思いますが」と伝えたんです。そうしたら彼らは承諾してくれました。しかし理解をしない受容的でない方には話をしないようにということでした。

（筆者注＝ブラザーズというのは正式にはスペース・ブラザーズといい、太陽系の地球以外の惑星から来る友好的な異星人を意味する。この異星人問題に関しては新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）に詳述してある）

UFO問題に一大ショックを受ける

まず、私が異星人の存在に気づいたのは、昭和六〇年（一九八五年）です。私の身近なある人が体験をしたのです。それは、その人と一緒に仕事をやっていた別な男性の方が、「あなたはUFOを信じますか？」と、いきなり言ったそうです。そこで「信じているけど見たことはない」と答えたら、「あそこの雲を見てみなさい」と言うので、その方を見たら、その雲の中に二機から三機ばかりのUFOが雲から出たり入ったりしているんだそうです。

その方はその光景を目撃してから、これは素晴らしいと思い、私の所に連絡をされたものですから、その話を聞いたんです。そうしたら、その話を聞いただけで、私の体がなにか電気が流れたように感じられて、そうした問題に腹の底から目覚めたようなショックを全身に感じました。そして、疑うよりも「これは素晴らしい」と歓声を上げたくなった記憶があります。

それから一カ月か二カ月たちまして、そのUFOを見せてくれた方に一度会わせて下さいと頼んで、その方に会ったんです。

大体に私はUFO問題について、小さい頃から興味がないわけでもなかったんです。小学校の頃には、これはUFOに関係があるかないかはわかりませんが、学校からの帰りに空から金箔のこまかい物が落ちてきた記憶があります。「ああ、星が降ってきた、降っ

てきた」と騒いでいましたが、これがUFOとかかわりがあるかどうかは、まだブラザーズに聞いていませんので、よくわかりません。

異星人の姿に感動

それで話をもとにもどしますと、その方に会ったときに言われたんです。「UFOというのは、異星人の乗り物であって、これは太陽系の地球以外の惑星から来るのだ」と。

私はその話を聞きまして、体に震えがくるほどに感動しました。それならUFOに乗っている宇宙人というのは、どういう人なんですかと聞いたんです。そうしたら、パッと記憶が出てきたんです。それは以前に見たことのある薄い本ですが、そこに一つの絵がありました。それは銀髪の長い男性で、白い衣服を着て、UFOの中にいるんですが、丸い窓があって、その中でその男性が子供を抱いている絵です。その男性の顔はすごい美男子で鼻が高くて、素敵な顔をした絵でした。

それを見たときに、私がこれまで求めていたのはこれなんだと、フッと自分で思ったんです。

しかし私はそれまでにUFOを見たことがないものですから、まず宇宙を見ようというわけで、天体望遠鏡を二台買いました。反射望遠鏡と屈折とをそろえて毎日宇宙を観測していたんです。今思うと関連があるのかなと思うんですが、星雲とか星座を見ないで惑星ばっかり見ていたんです。土星、火星、金星などです。水星は見ていません。その時期になると空を眺めるのがすごくロマンティックを超えて、本当に望遠鏡の視野の中に宇宙空間が見えて、その中に惑星が浮かんで、それが本当に生き物のように神秘的に動いているんです。それらを見たときに自分と宇宙とが一体になったという気持ちになりました。

UFO研究に専念し始める

それからです、UFOというものを徹底的に自分なりに研究しようと決意したのは。それから古本屋へ行ったりいろんな本を捜し求めました。当時の本屋さんにはUFO関係の本が少なかったんです。それで古本屋へ行けば昔の古い本でUFO関係の本があるかもしれないと思って、何十軒の古本屋を回って、一〇冊以上の本を買ったんです。その中に『UFOと宇宙』という専門誌とかいろいろありました。

（筆者注＝『UFOと宇宙』は筆者久保田がむかしユニバース出版社を経営していた頃に全国に出していたUFO専門誌）

それで私なりにいろいろと勉強をしましたが、しかしその中に人間の姿をした異星人とか、怪獣みたいな形をしたものとかがありましたが、しかし私はわれわれと全く同じ形の異星人に目が引かれたんです。これは凄いというよりも、むしろもっともっと知りたいという気持ちを起こしまして、もっと頑張ろう、いろんな情報を入手して、自分なりに研究しようと決意したわけです。

UFOの目撃が始まる

それから私自身のUFOの目撃が始まったんです。

ある夜、望遠鏡で空を観測していましたら、普通の星よりも大きい星があるんです。色はちょっと暗い濁りのあるオレンジがかったような光の星が出ていたんです。

その光を見ていたときに、アレッと思ったんです。そうしたら、その光体がいきなり動き出したんです。そのときは心臓がドキドキして、これがみんなが言うUFOなのかと思って、それを忘れないようにいつもイメージしていました。

それから何か月かたって、もういつも空を見るクセがついていたのですが、しかし自分がたまにリラックスしたときに、ふと空を見たくなるようなフィーリングが出てくるようになりました。

あるとき空を見たら、細長い円筒形の物体が現われたんです。それは全体がオレンジ色で、四～五分間ゆっくりと移動していまして、私はずっと時計を見ながらそれを観察していました。

するとパッと消えました。それで家に帰って、いろいろと本を調べてみましたら、別な惑星から来る母船というのは円筒形であることを知りまして、それをしっかりと記憶に残しました。

自分がそのような物を見たことは嬉しいものですから、会社の同僚や上司など、いろんな人に母船を目撃したことを話すのですけれども、逆に気違い扱いされて、バカだとかタワケだとか言われたのですが、私は自分が見たものは絶対に母船であったと信じていました。

銀色の大きな円盤が降下

あるとき愛知県の豊橋から安城の方向にむかって、岡崎市の額田郡の音羽町のあたりで車で走っているときに、また空を見たいというフィーリングが起こったんです。そのときは仕事の車で助手席に乗って走っていたんですが、山の谷間を走って行く国道一号線です。そのときにまた空を見たくなりましたので、右の空をパッと見たんです。すると右側の山の上から下にかけて、丸い銀色のけっこう大きな丸い物体が、山の裏側にスーッと降りて行ったんです。

そこで私は心臓がドキドキして、運転している人に「早く早く山の向こう

へ行ってくれ」と言って、山の向こう側へ行ったんですが、もう物体は見られませんでした。

それから私はもっと情報がほしいと思いまして、六二年（一九八七年）に久保田先生の日本GAPを知りましたのでGAPに入会して、いろいろ力を頂いて研究を続けておりました。

しかし、その後、いろいろな事情があってGAPを少し離れていましたが、いろんな本を読んだりしていました。

それ以来、UFOの目撃はちょいちょいあったんですけれども、しかしそうした宇宙的な問題から一時期離れたことがあったんです。

宿命の大事故と不思議な声

そして年月が経過して一九九四年、つまり一昨年です。その年に私は大きな事故を起こしました。

その日はなぜか心の奥で「今日は仕事場へ登ってはいけない」という警戒のフィーリングがすごくわきおこったんです。しかし、ほかに仕事をする人間がいないために、しょうがないというわけで、私が登ったら、あのような事故が発生しました。

その仕事というのは送電線の鉄塔に登るのですが、送電線の電圧は三万三千ボルトあります。私はそれに感電したんです！

バーンと感電した瞬間に、普通ならば記憶がなくなるそうですが、しかし私は全部記憶しているんです。安全ロープをつけていましたから、下の地面までは落ちなかったのですが、とにかく感電した瞬間も落ちて行くあいだも、全部スローモーションの世界で展開してゆきました。自分がどういう状態で感電したか、落ちて行くときの風景がどんなものだったかを、スローモーションの動きですべて覚えているんです。しかもそのあいだに「頑張りなさい！」という声がかすかに聞こえた覚えがあります。

私達の仕事では、感電したらどういうことになるかについて教育を受けていますが、まず死んでしまうか、軽くても両足を切断することになります。そういう状態を知っていますので、その不思議な声を聞いてからは「頑張らなくてはいけない、頑張らなくてはいけない」と思い続けて、強い意思と信念の力をつけることができました。

病院に運ばれてから処置を受けましたが、病院としてはそれまでにこんな重症を扱った経験がないので、こんなに物凄い感電症状で生きているのが不思議だと先生方は首をひねっていました。しかし肉体は破壊の状態でした。いつ死んでもよいような状態です。

麻酔中の素晴らしい夢

しかしヤマを越えて命は助かりましたが、運ばれてから二〇日ほどしてから手術をしました。それは左足を切断するのです。合計六時間ほど手術をしたんです。そのあいだは全身麻酔をかけましたので、その間はもちろん記憶がありませんが、起きたときに麻酔中に夢を見た記憶がよみがえったんですが、それは私がUFOに乗って宇宙旅行をした夢です。

そのUFOというのもしっかり覚えています。もちろん丸い円形の物体で、内部はすごくきれいです。

夢の中ではまず最初にブルーの光が出てきました。そしてその光が消えた瞬間に、丸い物体の中に私がいたんです。その物体が円形でスクリーンみたいなのです。なにかギラギラ光る蛍光板みたいなスクリーンがありまして、真ん中に丸いテーブルみたいな台があります。そこに一人の人間がいて「よくいらっしゃいました。今からあなたを宇宙旅行につれて行ってあげましょう」と言うのです。

そこで私は地球を出て、宇宙をグルーッと一周して、また地球へ帰ってきたんです。それはほんの短時間でしたけれども、パッと目があいたときに、もう六時間弱ほどすぎていたんです。しかもまだ麻酔の効いている状態なのに目がパッとあいたんです。まだ喉の所まで酸素を入れているから苦しかったんですが、先生も「あれ、もう起きたのか。おかしいなあ」と不思議がっていました。

それからは全然眠れなかったんですが、すでに手術も終わって糸も縫って、包帯を巻いている状態だったもんで、それでよかったんです。

それからは九四年の一〇月から一二月いっぱいまで入院していました。入院しているときでも無菌室ですから一歩も外に出れません。家族しか入れません。家族も全部消毒します。外の景色は見れません。考えることは夢の中で見たことばかりでした。

『生命の科学』を読む

私は昭和六〇年に『生命の科学』の本を手にいれているんです。それは昭和五八年に発行された古い本です。（筆者注＝ジョージ・アダムスキーの宇宙的な哲学書『生命の科学』は現在、新アダムスキー全集第三巻に収録されて中央アート出版社から出ている）

それで『生命の科学』をまず読もうと思いました。その本は私に最初にUFOについて目覚めさせてくれた人がくれたんです。そこでその本を一生懸命に読んで、理解できない所は何回でも読んで、そして読むたびに夢の中で見た宇宙船を私の意識の中に融合させていました。

そのうち退院する日がきました。ここから重要な話になるんですが、入院してから片足を切断した上、あちこち

▲1995年３月のある夕方、愛知県岡崎市の国道248号線上から見たＵＦＯ。　Ｚ氏画。

▼1996年４月25日夜、別な惑星の人達とテレパシーで交信中に彼らが「窓をあけて外を見なさい」と言うので、外を見たらＵＦＯが出現した。　Ｚ氏画。

を処置してもらったのですが、病院の痛み止めが効かないんです。ですから、いつも痛むんです。足も痛いし、この先どうやって生きていったらよいのか、今までのような生活行動ができないし、いろいろと悩んで、意識が低下し始めて、混乱の状態になってきました。

そのときに、ふと思いついたのが、ある物質です。そして、なぜか、それを服用すれば痛みがなくなると感じたんです。それで一回やってみようと思って、飲んでみたんです。

すると不思議にもあらゆる痛みがスーッととれました。しかも今まで混乱していた意識が全く何もなかったようにフワーッと安定してきました。そして家の中で行動したり歩いたりするときに起こるフラフラした状態も全然起こりません。

不思議な現象が発生

そのときに夢の中のUFOのことを思い出したんです。というよりも、そのことを思い出そうと思ったら、その思い出そうとした物が、自分の目の中の視覚に映像となって出てきたんです。つまり私が目を開いた状態でいますと、私の視覚の中にスクリーンが出来ていて、その中に私が夢の中で見た物を思い出そうとすると、それがすべて映像となって出てくるんです！

あっ、これは何か違う！と思いまして、さらにやっていましたら、それをやりだしてから二日目に別な映像が出てきたんです。

そうしたら、その映像の中に長細い物体が横からヒョイと飛び出てきて、私の前にシューッと来るんです。それがだんだんと大きくなってきて、その中にもやもやと人が立っているんです。

その人というのは、はっきりとは見えませんでしたが、次のように言うんです。

「私達はあなたと会うことになっていました。これからは私達の言うとおりにして下さい。あなたの傷を治しにきました」

私は心の中で叫びました。

「エーッ」と。

「いいから、私達の言うことを聞きなさい。あなたの傷にむかって、毎日、治るんだ、治るんだととなえなさい」

そもそも病院側からは私の傷口に出ていた白い腱がふさがるのに四週間ぐらいかかると言われていたのですが、（筆者注＝腱というのは筋と骨とを結びつけている白い繊維性の丈夫な組織）そのスクリーンの中の人が言うには、「毎日『治る、治る』ととなえなさい。そうすれば、あなたの傷は一日一日みるみるうちに閉じてゆきます」と言うのです。

ほんとかなと思いましたが一応やってみようと思って、毎日続けました。朝、お風呂に入って薬を塗ってガーゼ交換をやるんです。そのときに、

「治れ、治れ、傷よふさがれ、ふさがれ」と、となえたんです。そうしたら一日ごとに傷の大きさが違ってくるんです。結局、一週間で傷が完全にふさがってしまいました。

（筆者注＝覚醒時に目を開いた状態でスクリーンが展開してその中に人物その他の光景が見えるのは、心霊的な幻覚や幻聴とは異なって、真実の異星人との波動による典型的なコンタクトであると秋山眞人氏が述べている）

大体に三カ月ほどは左の足は曲がったままでした。伸びないんです。病院を出るときにリハビリの先生が何回も伸びるようにやってくれたんですが、ほとんどだめでした。これが完全に伸びなければ、膝の上から切断すると言われていたんです。

奇跡的に足が伸びた

しかし膝から上の切断は嫌だったので、なんとか伸びるようにしようと思っていました。ところで傷が治ってからは今度は別な少し太い物体が来るようになったんです。その次には違う乗物が来て、そうしたら映像の中でブラザーが

「もう一度私達の言うことを聞きなさい」と言いました。「あなたが今苦しんでいることは私達にもわかっています」と言うのです。

「足が伸びないんです」と答えると、「じゃ、足を伸ばしなさい。痛くないから伸ばしなさい。映像の中でパッと光ったら力をいれて、足をギュッと押しなさい」と言います。

そこで私は足を押してみました。すると裏側のスジがグイッグイッと伸びる音がするんです。そして足が伸びるんですよ！　そして一週間ちょっとで足が伸びてきました。

それから病院へ行ったら、先生が目ん玉をひっくり返すような顔をして、「これはすごい！　こんなもの、おれは見たことないよ。よく頑張ったな。どうやってやったのか」と聞かれましたが、理由は言えなかったものですから、黙っていました。

異星人とのコンタクトの契約

私としては映像のスクリーンの中に不思議な人影が出てくるのが嬉しいものですから、またスクリーンを作りますと、またやってきます。それをくり返して、足が伸び出してから四回目だったでしょうか、またスクリーンの中に人物が来たときに、そこで初めて相手から聞かれたのです。

「あなたは宇宙人をどう思いますか」と。それは音声がはっきりと聞こえました。

そこで私は心の中で答えたんです。

「私が思っている宇宙人はわれわれと

▲立っているのはY・Z氏。左方の空中に白くて丸いUFOが写っている（白い矢印）。

同じ姿をして、太陽系の地球以外の惑星から来ると聞かされていました」と答えましたら、相手は

「私達はあなたの言う宇宙人です」と言ったんです。

そのときには相手の姿がはっきりと見えました。それは白黒の映像だったんですが、宇宙服を来ており、少しダボッとしたズボンをはいていました。腰のベルトがはっきり見えませんでしたが、全体は宇宙服でした。髪の毛は少し上に刈り上げた感じで、日本人タイプの方でした。

さらにその人が言いました。

「私達は、あなたが事故を起こしたときに、あなたは気づいていなかったでしょうが、あなたの潜在意識から天空へ向けてあなたが放った『助けてくれ』という想念を確実にキャッチしました。

それで私達はあなたを助けるために、あなたの意識の中に入り込むことができました。あなたはこれから私達と会いたいですか」と聞きますので、

「会いたいです！」と答えましたら、

「私達の科学、技術、精神を知りたいですか」と聞かれましたので、

「はい、知りたいです」と言いました。

「それなら、これからたびたび通信しましょう。これからは一つの『感じ』をあなたに起こさせますから、そのときには、あなた自身のやり方で私達に接触を求めて下さい」と相手は説明しました。

異星人に呼びかける テレパシー通信

それから当分の間はそんな感じは起こらなかったんですが、あるとき、朝起きてから落ち着かなくてソワソワしていました。でも私は片足がないし、外へは出れません。窓をあけても何も飛んでいない。でもやはりソワソワしていたんです。そして夜になってくるとドキドキするんです。

これは映像に出てきた人達が私に起こさせた『感じ』なのかなと思って、それなら私の想念波動を伝えようと思って考えたんです。しかし私がいくら精神統一をやっても、全然そのような映像は出てきません。何も出てこないんです。

それなら、あのやり方しかないと思って、まず音楽を聴きました。いつもそうするんです。私は喜多郎の音楽を鳴らして自分の意識をコントロールしたり安定させたりします。

（筆者注＝喜多郎はシンセサイザーの名手として名高い人）

そして音楽を聴きながら

「私は今、どこかからか一つの『感じ』つまりフィーリングが来ました。この太陽系の、地球以外の惑星の兄弟の皆様、私の呼びかけが届きましたら応答して下さい」と、となえたんです。

私の呼びかけ方というのは、以前に

久保田先生が書かれた本の中に異星人に対する呼び出し方とか秋山眞人先生の呼び出し方などいろいろ出ていましたので、それを私はまねたんです。これを私は正しいと思っていますから、やってみたんです。

そうしますと、フィーリングがあるときには、すぐ映像がつながるんです。そしてスクリーンの中に映像が出てきまして、まず雲のある天空がでてきました。それが少しずつ動いているんです。

すると低い音声で

「もっとリラックスしなさい。もっとリラックスしなさい」という声が入ってくるんです。そこで本当に心をリラックスさせていますと、

「もっと私達の方へ意識を向けて下さい。もっと上がってきて下さい」と言います。

そこで一生懸命にやるんですが、焦りが先に出てうまくゆかないときには、相手の指導のもとにやっと『上に上がれる』ことができるんです。

彼らの波動の近くまで私の波動をもってゆくと、一つのまた違うスクリーンがパッと出てきまして、宇宙船がパッと出てきます。それが最初のテレパシー通信でした。

マイナスの想念をプラスに変える方法

それから彼らといろいろ話ができて彼らが言うんです。

「私達はこれからあなたとテレパシー通信を通じて、いろいろなことを伝えます」と。

それで私が聞きました。「今私が体験していることは、普通の人とは違う体験の仕方です。これは幻覚なのでしょうか。それとも空想的なものでしょうか」

すると相手が言いました。

「これは現実です。信じなさい。それはあなたの脳から潜在意識を通じながら我々の意識と一つのパイプラインがつながって交信をしている一つのテレパシー通信です」と相手ははっきり言いました。

そういうことで現在までずっと交信しているんです。やり方はいつも同じです。しかし理解されない方に話しますときに、これは早く言えば××なのですが、それを利用することによって理解力の向上、意識の集中、イメージの確定、オープンマインドを持つ助けとなります。

しかし異星人達は私がそれを使用してやっていたことに関してべつにとがめなかったんです。

「それはあなたが考え出して、私達の波動を感知するための、あなた自身の最大の手段であると私達はみています。どういうやり方であれ、あなたは私達に応えたのです」と言いました。

私はいろいろと考えましたが、まず自分とは何かと考えてみました。そして得た結論は、そうか、私は何か人の役に立つためにこの世の中に生まれて、あの事故もこのようなコンタクトを通じて考えるために与えられたことだったのかと思ったんです。

したがって私は彼らから学んだ事を、理解ある方、寛大な方、そんな人々に私の体験を知らせるのが自分の使命ではないかと思いました。そしていろいろなことを異星人から教わりましたが、特にマイナスの想念をプラスに変換させる方法、変換できないマイナスの意識つまり想念は細胞にしみつくそうですが、その細胞を除去する方法などを映像と音声で学んだんです。

そして学んでいる最中に彼らが

「いま、あなたがマイナス的に思っていることを思い浮かべて下さい」と言ったんです。そのときに私がフッと思い出した事があるのですが、彼らは

「その思い出した事を自分でプラスに変えて下さい」と言います。それで私は今までマイナスに思っていたことを考え方を変えてプラスの方向へもってゆこうとしたんです。

そうしたら、映像の中でプラスの細胞が——血管みたいな管が映像の中に出てきまして——細胞がプラス、マイナス、プラス、マイナスとあるんですが、そのマイナスの細胞の一つが、私が想念をプラスに変えたらマイナスと書いてある細胞がクルッと変わってプラスになったんです。すると彼らが言いました。

「いいですか、今のやり方がマイナスの想念をプラスに変える一つのやり方ですよ」

次に、古いもの（今までに間違って学んだ事）を除外して新しいものを取り入れる方法ですが、細胞のなかには古いのがありますから、そうものを消し去ろうというわけです。そうした方法も学びましたが、不要なものを取り除くには、それが飛び出るイメージを描くんです。するとマイナス的な細胞が映像の画面からポンポコポンポコ飛び出て外へ出て行くんです。

「これが、あなたのマイナス的なものを取り除く方法です」と相手は言っていました。

このレッスンは一週間半ぐらい続けました。そうしたら、自分にマイナス的な想念が起これば、すぐにプラスに変換させることができるようになりました。

意識で宇宙船に触れる

そのあいだに、今度は岡崎なんですが、また母船を目撃しました。そのときに久保田先生に電話をしたんです。細長い母船が私の視界の左側に見えたんです。その母船は私から遠ざかる方向に飛んでいるんです。

その円筒形の物体は中が白くて、外

回りがオレンジ色の輪郭のはっきりとした物体です。その物体がずーっと飛んで行って、消えてから消えたところに今度は小さいオレンジ色の物体が飛び回っているんです。そしてパッと消えました。

その後は何度も異星人とテレパシー通信を行ないましたが、それについては九八パーセントは信じていましたけれども、あとの二パーセントは疑惑が残っていたものですから、あるときの交信で聞いてみたんです。

「この私の体験は本当のテレパシー通信なのでしょうか。もし事実でないことならば本当のことを言って下さい」。すると相手は言いました。

「あなたはなぜ自分で疑うのですか」と、はっきり言われました。

それからもう私は事実と思って、ずっと交信を続けているんです。私の映像の中には母船が出てきたり、彼らの惑星も出てきました。そして地球も出てきました。いろんな物が出てくるんです。そして円形の物体が空間に浮かんでいる姿もありましたが、素晴らしい光景でした。「それに触ってごらんなさい」と彼らは言うんです。テレパシー交信なのに触ることができるんですかと問いましたら、

「よく聞きなさい。あなたの意識とあなたの感覚器官つまり心を一体化させなさい。というのは、いまテレパシー通信で必要な感覚器官を使う場所が、あなたにわかりますか」と言うものですから「わかりませんが」と答えたら、彼らが言うには、

「テレパシー通信で感覚器官を使う部分は、視覚、聴覚、触覚です。臭覚と味覚は使いません。以上の三つを発達させなさい」と言っていました。それでそのとおりに練習していましたら、いろいろなこまかい物が感知できるようになりましたし、微弱な音が聞こえるようになったり、普通は見えないような物が見えるようになってきたんです。

話をもとにもどしますと、ブラザーが私の映像スクリーンの中の空間に浮かんだ円形の物体に触ってごらんなさいと言うものですから、私は意識の中で触ったんです。映像の中を見ても私の意識と触覚が一体化しているために、伝わってくると思ったんです。

それはすごく滑らかな物体で、やさしく触って下さいと言うものですから、やさしく触りましたが、そのときの気持は感動の極に達しました。

そのときは本当の宇宙や神というものを私に教えてくれるために、真実の宇宙空間の映像を私に見せてくれたんです。

太陽系の映像を見せられる

まず暗黒の空間の中にいろんな光がさまよって、そのさまよった部分と、遠くから見た私達の太陽系全体と、いろいろな惑星などを見せてくれました。

彼らが言うには、私達の太陽系には惑星が一二個あるそうです。その一二個の惑星の軌道を映像で送ってくれたんですが、八番目の惑星（天王星）は大体太陽から等間隔の同じ軌道で回っています。九番目の惑星（冥王星）が八番目を追い越して回っています。そして一〇番目がその外側を縦状に回っていて、一二番目まで軌道が次第に縦に回っているんです。そういう軌道を見せてくれました。

一二番目の惑星は丸い輪に取り囲まれていて、それは縦になっています。土星は輪が横になっていますが、一二番目の惑星の輪は縦になっているんです。そして青っぽい惑星です。それを見せてくれました。これらの光景は私の目をあけていながら、スクリーンの中に見える映像です。目を閉じてやる方法も教えてくれました。

しかし目をつむってやるよりも目をあけて、目の裏側のスクリーンに、目のレンズを利用して放射されるというか、そういう状態で見れるんです。その方がスクリーンが大きいんです。目をつむるとスクリーンは小さくなります。一種の遠隔透視みたいなものです。それを教わって、それからずーっとそれでやっています。

それを教えてくれた人達は第二、第四、第六の各惑星です。つまり金星、火星、土星です。ただし土星の人はあまり映像に出てきません。やはり金星の方が多いんです。

映像を送る方法

テレパシーについては私は今までいろいろと勉強してきまして、いろんな人がテレパシーを体験しているという情報を知りました。そうした外界からの波動を感受して、その感受したものを映像にすることはけっこう多くの人がやっているんですが、電話でいう同時通話で同時映像、つまり音声は、私の場合は電話みたいに同時にしゃべることができるんです。

それは彼らが言うところによりますと、彼ら同士はそういうことは脳と脳で可能だということです。だけど地球人と行なうのは私が初めてではないようですが、そういう方があまりいなかったということです。それを私は彼らとやっているらしいのです。

私が通信したいときに、言葉で届かないときには映像を送るんです。最初相手から映像を送って下さいと言われたんで、映像はどうやって送るんですかと聞いたら、イメージすればよいのだと教えてくれました。自分が送りたい物をイメージして送ればよいんです。それで聞きたいことがあれば、それをイメージして音声と同時に送るんです。相手がそれを理解すると、また映像を

送ってきます。そういうやりとりをしているわけです。

特殊な文字と記号を教えられる

彼らは図形に近い文字とか、そのようなものを送ってきました。送ってくるときには、相手が「書くものを用意しなさい」と言います。それで私が筆記具を用意して待っていますと、一つずつ送ってよこした文字がこれです。

（Z氏はノートを取り出して、奇妙な図形を沢山見せながら説明する）

これが私に送ってきた文字です。こちらは私が調べた地球の古代文明に残された図形とか文字なんです。両方を比較すればよく似ている部分があります。これらの文字は何かを組み合わせて一つの文字になるようです。（別な文字をゆびさしながら）この特殊な文字は私自身に伝えられた文字なんです。これからのテレパシー通信で、これとあるものを融合させると、すぐにテレパシーがつながるようになっているんです。そのために私に与えられたんです。この意味も教えてもらいました。

（ここでZ氏は異星人からその特殊な文字の書き方を教えられたと言って、それを説明する。以下省略）

重要な金星のシンボルマーク

異星人との交信に際しては、あるときに彼らからのフィーリングがあり、それに対してこちらから答える、という方法を続けるわけです。しかし彼らはずいぶん忙しいものですから、時間があまりないときには「今日はこれで失礼します。申しわけありません」と丁重に詫びの言葉を送ってきて、それから映像がずーっと消えてゆくんです。それで私は「どうも有難うございました」と別れの言葉を送ります。

ところがあるとき、テレビの番組などを見て疑問点が多いところばかりに気がつくんです。そうしたら、彼らが言うには、

「あなた自身が私達にたいして自由にコンタクトを求めてきてもよろしいですよ」と言うのです。そのときには「わかりました」と答えたんです。すると相手は「そのときにはそのマークを出して下さい」と言いました。

あるとき、アダムスキーが金星人から与えられたシンボルマーク、つまり中央に意識の目が一つあって、周囲に放射状の光が何層にも出ているあれです。あれを私は自分で大きく絵に描いたんです。それはもう定規とコンパスを使って寸分の狂いなしに描きました。

あれを自分で描くとわかるんですが、計算がぴったりなんです。一つのコンパスを広げてある部分を描きまして、針を打つ部分をずらすだけで、全部同じものが出来てくるんです。素晴らしい出来具合です。

あれを見ながら、こちらから何度も呼びかけたんです。そのときはスッとつながりました。そのとき私が金星のシンボルマークを見ながら意識を次第にオープンにして、彼らの方へ向かうわけです。

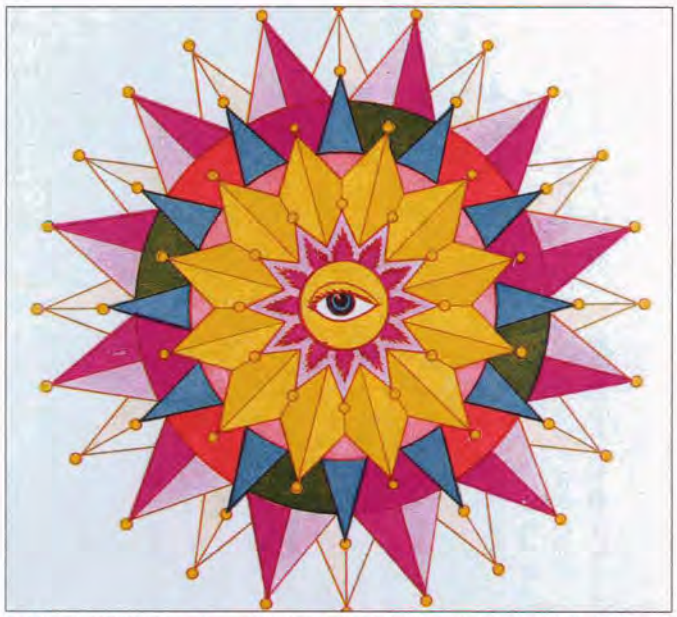
するとスクリーンの映像の中に私と同じ金星のシンボルマークが、回転しながらヒラヒラヒラと出てくるんです。アレッと思っていますと、次に音声が入ってきました。「あなたはこのマークをどうして知っているんですか」と相手が聞くんです。

「これはこの地球のあるアメリカの方が四〇年以上も前に、あなた方の仲間が来たときに、これを伝えられたのです」

「そうですか。たしかに地球の方に私達の仲間達はこのマークを伝えています」とはっきり言いました。

「このマークは私達が以前に伝えたマークです。このマークには意味があります。あなたはこのマークの意味を知っていますか」と聞かれました。そこで私は、

「このマークは宇宙の意識をあらわしており、すべての物を見通す目であって、まわりの四層の放射状は四つの感



▲金星のシンボルマーク。内部の目は人体を生かす宇宙の意識（魂、叡知、生命力）をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド（心）の発達状態をあらわしている。これはむかしアダムスキーの秘書であったアリス・ウェルズ女史より久保田八郎に贈られたもの。

覚器官の発達をあらわす記号ではありませんか」と言いましたら、

「そのとおりです。あなたはそれらの感覚器官を発達させて、意識と一体化させて、宇宙の意識、つまり潜在意識をうまく使って、私達とコンタクトしなさい。これからは、あなたの方から私達にテレパシーで呼びかけるときに、金星のシンボルマークに、あなたに与えられた特殊な記号を融合させて下さい。そうすれば、すぐテレパシーがつながります」と言ってくれました。

それからは楽になりまして、すぐにつながるようになりました。金星のシンボルマークを見ながら想念を送りますと、すぐ出てくるようになりました。彼らも忙しい人達ですから、以前は何度想念を放射しても、一時間ぐらい続けても出てこないことがありましたが、この金星のシンボルマークを心に描いて私のマークを融合させますと、すぐに相手が出てくるようになりました。今はそのやり方でやっているんです。

その人には体験を話してもよい

私は以上お話ししました体験について伝えたい方がいると彼らに言ったんです。ぜひとも私が伝えたい方が東京にいますと言ったんです。すると向こうの方が

「よろしければ、それが誰なのかを私達に知らせてくれませんか」と言いましたので、私は心の中で「久保田先生、久保田先生」と、となえたんですが、彼らは一向に反応を示さないんです。

そこで久保田先生が写っている本の写真の映像を見て、そのイメージを送ったんです。そうしたら今度はすぐにわかってくれまして、「もちろん」と力強く言ってくれて「伝えなさい」と言いました。そうやって相手が久保田先生のことがパッとわかるということは、やはり先生の存在を知っているということですね。

（筆者注＝スペースピープルは名前をいっさい持たず、人間に関してはすべてイメージで覚えているとアダムスキーは述べている）

今回ここへ（東京へ）来るに際しましては「あなた自身の目的を頑張って果たして下さい」と言われました。そして、

「あなたの話を聞いてくれるその方は、あなたの言うことをよく理解してくれるでしょう」と言いました。

そこで私は「いままであなた方から伝えられた事柄のすべてを、その方に話してもよいですか」と聞きましたら、「昔と違って、今はあなた方の星（地球）も人間自体が変わりつつありますから、全部話してもよいですよ」と言われました。そしてこう言いました。

「私達は、あなたが伝えたいと言っている人がやっている団体（日本GAP）の活動をとても喜んでいます」と言っていました。そして「その方に私達からもよろしくお伝え下さい」と付け加えていました。その人は金星人です。（筆者注＝異星人が地球の一定の人間Aに連絡またはコンタクトする場合は専任の小グループを形成する。その専任以外の異星人達はAに対して全くタッチしない）

ラミューという仮の名の異星人

先生によろしくと言った金星人は仮の名をレフターといいます。

あるとき私は彼らの仮の名前を与えられたんです。そのなかにラミューという名前が出てきました。それで私はふとアダムスキーのことを思い出したんです。

そのラミューという人が直接映像の中で言ったのではないんですが、別な方が「そのラミューという人は以前に地球で活躍した人だ」と言われました。「その方は私達グループのリーダーで、地球にいたときもかなり発達した方でした」と言うのです。

私の映像スクリーンの中に、そのラミューという方の目が出てきたことがあります。それは「あなたに私の意識の現われ、私達の魂の現われをお見せしましょう」と言って、その方の目だけが出てきたんです。

それはすっごくきれいな目で、なんというか、黒いようなグレイのまじった感じのすごい目でして、優しい中にきびしさといいますか、キッと見る目の輝きもすごいものでした。

それが近づいてきて、私をジッと見るんです。そのときには私の意識の中に何か突起物が入ってきたかのように、ズシーンと響いたんです。

「これが私の魂です。あなたもいろいろな体験をこれから積み重ねるわけですが、信念をもってやって下さい」と言いました。

ラミューというのは、たぶんアダムスキーとコンタクトした人と同じ人だろうと思います。以前に地球にいたということしか言わなかったものですから、そうだろうと思うんです。

アダムスキーとM氏の体験は真実！

以前に私にはいろいろな問題に関して質問する許可が与えられたんです。そのときに

「アダムスキーという方の体験は本当なんでしょうか」とたずねました。

すると「真実です」と相手は答えて、「私達はあの方を栄光ある人と思っています。というのは、あの方は体験を書物として一般にそれを伝えたからです。私達はそれを大変嬉しく思っています」と言っていました。

ついでに日本人コンタクティーのM氏の体験について異星人に聞いてみましたら、M氏の体験も真実だと彼らは

言っていました。しかしあの方とコンタクトしているグループは、私がテレパシーでコンタクトしているグループとは別個だそうです。そしてM氏の事に関しては情報を伝えてはもらえませんでした。というのは

「アダムスキーという人はもう地球世界にいない人ですが、M氏はまだ地球にいる人ですから、いくらあなたでも、あの方に関してはお伝えできません。しかし、あの方は素晴らしい人です。あの方の体験は事実です。あなたは、あの方と会うことができますよ。ですから、あなたは行動力をもって会いに行きなさい」と言いました。

（筆者注＝M氏に関しては拙著『UFOと異星人の真相』に詳述してある（中央アート出版社刊）。

他人に対する奉仕のみで生きる

さらに

「あなたはこれからどういうことをやりたいのですか」と聞かれたものですから、私は自分の体験や教わった事などをいろんな人に伝えて、私が持っている力、特にテレパシー通信をやっているあいだにヒーリング（病気の治療）の力が出てきましたので、それを応用して、人の痛みを取ってあげるとか、腫れをひかさせてあげるとか、ちょっとした病気を治せる力を持っているものですから、そういうものを含めて、私が持っている力を、いろんな人に奉仕として尽くしてあげたいのですと答えました。

さらに「私は今あなた方からいろんな情報を提供してもらっています。それをあなた方の奉仕として私は受けます。だから私は地球の同胞の方々に奉仕して、いろんなことをしてあげたいと思っています」と言ったんです。

すると彼らは「考えましょう」と言ってくれました。そして「これからいろんな問題が地球上に起こることは確実です。それに関してあなたはいろんな人と力を合わせて地球を救いなさい。まずプラスのイメージを持つことです」と言われました。

ある大災害の発生を予告

（これから地球上に起こる問題とはどういうことなのかという筆者の質問に対して）

私が映像で受けたのは、まだ日時は教えてくれませんが、日本の場合は国内の××地方にある大災害が発生するというのです。

（筆者注＝事情によって地方名と災害の内容は伏せることにする。読者からの問い合わせには応じられないので了解されたい）

異星人達は、それが発生したときに、どれだけの範囲に被害が及ぶかについて、映像の中で地図のような画面に赤いスジで示してくれました。

「その大災害発生が接近してきたならば、私達が通信したり接触している地球人の方々に知らせます。その知らせが行ったときに、あなたは仲間の人達に知らせて非難させて救いなさい」

と彼らは言っていました。この大災害について発生の日時は全然知らされていませんが、発生するのは確実なんです。（とZ氏はその災害発生の具体的な理由について語る）

アポロ13号故障の真相

さらに私が気がかりになっていたのは、アメリカが実施したアポロ計画の13号の帰還です。あの件に関して異星人達に問い合わせてみたんです。

（筆者注＝一九六九年からアメリカはアポロ計画を実施し、月面に次々とアポロ宇宙船を送り出して着陸させたが、四月一一日に打ち上げられたアポロ13号は月に接近中、司令機械船オデッセイの燃料電池酸素タンクが爆発したため着陸を断念、着陸船アクエリアスの酸素と動力を利用し、命からがら地球へ帰還した）

私はかねてから、アポロ13号の故障の原因は異星人がからんでいると噂で聞いていたものですから、そのことに関してたずねてみましたら面白い映像が出てきたんです。

まず月が出てきました。いきなり、

「月で核実験を行なったら、どういう結果になるかをお見せしましょう」と彼らが言ってから、ポンと光が出て、ちょっとした噴煙がポンと上がるんですよ。すると月の表面にエネルギーが私にわかるように色がついて見えるんです。それがフワーッと広がって、今度は宇宙空間に飛び出てくるんです。

そのエネルギーがだんだん大きくなって、それが地球を含めていろんな惑星に襲いかかる光景を見せてくれたんです。

「これを見れば、あなたはわかるでしょう」と異星人に言われました。その前に私は月の裏側の立体像を見せられました。ドーム型の格納庫や長細い建物などの光景です。

「あなたにはわかっているでしょう。月にも我々の仲間が住んでいます。あなた方が住民のいない場所で核実験をやったとしても、被害が月全体を覆うどころか、太陽系全部に影響があるんです」と言いました。

やはりアポロ13号は確実に月面で核実験を行なう目的で打ち上げられたんです。それで地球に在住している異星人の力では阻止できなかったので、連絡を受けた別な惑星の宇宙船が、アポロ13号に干渉して故障を起こさせたんです。このことは宇宙飛行士達も知っていたんです。

「大体に地球から飛び立った宇宙飛行士達のすべてが私達の（異星人の）存

在を完全に認めていました。だからアポロ13号の飛行士達もこの核実験はやりたくなかったんです。しかし飛行士達は地上からの命令に刃向かうことはできないから、しようがないと思って飛び立ちました。しかし私達は飛行士達の核実験をやりたくないという想念をキャッチしていました。それで彼らを救う目的も含めて故障させたんです。その場合、飛行士達が自力で故障を直せる状態までで止めました。私達は地球人を傷つけることはできません。私達はあなた方地球人を兄弟とみなしてきたんです」

これを聞いて私は涙が出るほど嬉しくなりました。彼らの地球人に対する愛というのはすごく強いんです。

ロズウェル事件の真相

次に私が異星人にたずねたのはロズウェル事件のことです。私はテレビであの解剖事件のフィルムを見たんですよ。それがなにか偽装工作といいますか、工作された映像だと思っていましたので、それも聞いてみたんです。

それは次のコンタクトのときまで常にこの事件のことを思っていて、その想念波動を宇宙空間に放射していたんです。そうしたら、あるときフィーリングが起こってテレパシーがつながった瞬間に映像が出てきまして、「あなたが疑問に思っていることを、まず最初に解説しましょう」と彼らは言ってから、ロズウェル事件の物体（円盤）が地上に落ちる映像が出てきたんです。ヒューッとこんふうに落ちる映像から始まったんです。そして落ちたんです。彼らが言いました。

「この太陽系の私達は、地球へ来るときには、まず二～三機の編隊を組んで来ます。そしてなにか故障が起きたならば、すぐ救助ができる態勢を常にとっています。私達はもっと大昔から地球へ来ていますので、地球人のやっていることや考えていることのすべてを知っているのです。

こういう故障は初期の問題です。私達はしだいに宇宙船の改良を行ないましたから、このような故障はなくなったのです。したがってロズウェル事件で落ちた宇宙船は、私達の太陽系のものではありません。あれは別な太陽系から来たものです」

（Z氏が続ける）

解剖されたのはたしかにロボットでしたが、あの宇宙船の中には本物の人間が乗っていたそうです。しかし落ちる瞬間に救助を求めて脱出したということで、ギリギリに助かったそうです。

私達の太陽系の別な惑星から来る人達もロボットを使用しているそうですが、それはロズウェル事件に出てくるようなロボットではなくて、グロテスクだけれどももっと優しそうな顔をしたロボットだそうです。

ロズウェルで落ちたのは確かにロボットなんですが、テレビで公開されたフィルムに関して、その内容の真偽については彼らは教えてくれませんでした。

ところが、一昨日届いたユーコン誌134号の中に、ロズウェル事件の記事が出ていたんですが、あの中でロボット説が書いてあったものですから驚いたんです。ロボットであることは誰も知らないはずなのに、久保田先生はどこからあの情報を仕入れたのかなと不思議に思いました。（以下次号）

筆者付記

そのあとZ氏は、異星人から教えられたテレパシーの開発法について、あらためて詳説したが、それはアダムスキーが説いているテレパシー開発法と原理的には同じであることが判明した。アダムスキーは「心と意識とを一体化させよ」と言うが、Z氏は「顕在意識と潜在意識とを一体化させよ」と表現していた。用語で若干の相違があるけれども原理は同じである。

この記事の語り手であるZ氏は礼節をわきまえた極めて謙虚な人で、最初に筆者がすすめたアイスコーヒーにむかって両手で深く合掌してから少しずつ飲んだ。片足を失ったというハンディキャップにもかかわらずコンプレックスはみじんもなく、明朗かつ平静であり、特に驚かされたのは素晴らしい記憶力であった。長時間の会見はほとんど氏の独演であるが、まるで不可視の原稿を読んでいるかのごとく、全くよどみなしに語り続けた。筆者の知る限り、この抜群の記憶力はコンタクティーの特徴なのであって、M氏もこの能力では驚異的であるし、アダムスキーも凄かったという。この高度な記憶力はコンタクティーになるための第一条件なのである。

次に重要なのは絶対的な正直と誠実さであり、次いでテレパシー、遠隔透視等の超能力の発達度である。Z氏の超能力は、まぎれもない本物であることが判明した。これを判定する方法があるのである。

筆者は過去に無数のチャネリング的なテレパシー能力者と称する体験者に立ち会ったが、いずれも似て非なる現象で、むなしい結果に終わった。彼らは外部から来る本物の波動をキャッチしているのではなくて、内部のイタズラ細胞群から来るメッセージを感受しているのである。これに関してはアダムスキーの『生命の科学』に詳述してある。

Z氏の体験談はまだ長く続くので、今後も連載を続ける予定である。次号ではアトランティス大陸沈没の時期、ギザの三大ピラミッドの建設の時期とその目的、その他多くの謎に関してスペースピープルの情報を紹介する予定である。ご期待のほどを。 ♀

●カナダ、バンクーバーに出現したUFO

1992年10月17日の午後、バンクーバーに１機のＵＦＯが飛来し、ゆっくりと木の葉運動をするのを数名の少年達が目撃。その中の一人が手にしていたカメラで連続撮影した（左から右へ続く）。１本のフィルムを全部使いきったという。少年達の氏名は伏せてある。©日本GAP

UFO Over Vancouver, Canada

Photos by Anonymous Teenagers / October 17, 1992

© GAP -Japan

イエス出生の謎を透視する

● 遠藤昭則

I Have Solved the Mystery of the Birth of Jesus Christ by Clairvoyance by Akinori Endo

筆者は遠隔透視・過去世透視・オーラ透視等の超能力を有する日本GAP本部役員。本誌132号に掲載された「イエスの時代を透視する」に続くイエスの謎に関する第二弾。宗教的伝説的な観念論や幻想を大きくくつがえす興味深い説が展開。

西暦二〇〇〇年は過ぎたのか

二一世紀まであと四年。現在の高校一年生が成人式を迎えるときには、もう二一世紀である。

しかし二〇世紀としてはその世紀末を迎えることになり、相変わらずの終末思想が巷間に溢れているということは、どういうことなのだろうか。

先日も中学校時代の同級生に偶然にも久しぶりに会うことができたのだが、その彼も終末思想を持つ一人であった。

詳しく聞くと、どうやら仲の良い人に教えてもらったそうだが、もうすぐ二〇〇〇年だからそれに備えているということだった。

しかし、今から約一〇〇年前の一八九〇年代にもそのような終末思想が出たことがあるそうだから、いつになっても同じような考えをする人は、いるもののようである。

中国の故事には、杞という国の人が、天が崩れ落ちて来はしないかと心配したという話があるそうだが、そんな人たちを簡単に笑うわけにはいかない。意外に、大きな企業を動かしている人や、科学的な研究をしている人たちの中にもそのような考えを持っている人はいるのである。

地球に住む私たちは、極端なものから極端なものへとたやすく動かされる傾向があり、その中庸というバランス

▼エルサレムの旧城壁内の一部（写真の右方３分の１の部分）。白い矢印がイエス磔刑のゴルゴタの丘跡に建てられた聖墳墓教会。右の黒い道路の崖から下はケデロンの谷。手前はユダヤ人の墓地。オリーブ山の展望台地より遠望。　撮影／久保田八郎

の位置を保つことが難しいとアダムスキーは述べている。それは古代中国の老子も「道」という一語で明瞭に表わしている。

世紀末に大変動や大災害が起こるという話があるのなら、それをネガティヴに考えずに、いよいよ愛と平安の時代がやってくるというクリエイティヴ（といっていいのだろうか）な考えを持ってもよいのではないかと思う。人間の想念が破壊的なものを招くようなものではいけないだろう。

西暦二〇〇〇年は過ぎた

ところがその前に、

「二〇世紀は、もうとうに過ぎ去りましたよ。今年は西暦二〇五六年。もう二一世紀に入って五〇年以上もたったのですよ」

と言われたらどうだろう。

実はアダムスキーは、西暦二〇〇〇年はもうとっくに過ぎており、それは一九三九年（第二次世界大戦の始まった年）だったと述べている。アダムスキーによれば、イエスが誕生したときに出現したベツレヘムの星というのは二〇〇〇年毎に生ずる三つの惑星の合（地球から見て三つの惑星が重なって見える現象）であり、それが一九三九年にも再び生じたというのである。

一七世紀の天文学者ヨハネス・ケプラーの計算によると、それは木星と土星とが魚座の中で合になったことで、それはその一年の間に三回も生じたということである。

ということは、イエスが生まれてから今日までの暦の計算のどこかに誤りがあったということになる。例えば、新約聖書の中ではイエスが生まれたときにヘロデ王は生きていたことが書かれている。

ところが歴史的には、ヘロデ王は紀元前四〇年に生まれ、紀元前四年に死んでいるのである。これは高校の歴史年表にさえ出ていることである。そしてイエスは紀元前四年から数年後の間に生まれたのであろうと言われているのだから、どちらが正しいにせよ、ここですでに何年かの誤差が生じていることになる。

アダムスキーは現代の暦が正確な計算よりも六〇年遅れていると指摘している。

新たな疑問——ヘロデ王とイエス

しかし、そのようなことを考えても謎が生じてくる。それでもヘロデ王の死とイエスの生誕との間には歴史学的な時間の隔たりが出てくるのだ。

そこでもし許されるのなら、次のようなことも考えたくなってくる。つまり、聖書にあるようにヘロデ王とイエスとが同じ時代にいたということがあり得たなら、なぜそれがローマの歴史では、ずれてしまったのかということである。それは故意によるものなのだろうか。それとも気付かずにそうなってしまったのだろうか。

そしてもしも故意によるものならば、なぜヘロデ王がイエスの時代にいてはいけなかったのだろうかということが問題になってくる。

なぜなら、イエスの時代の前、ヘロデ王は、何とエッセネ派に好意的であったということが歴史的にわかっているのである。というのも、当時のエルサレムに同居するようにエッセネ派を同居させていたことからもそれがわかるのである。

それは、エルサレムの南西にあるシオンの丘の方、最後の晩餐の行なわれた建物の近くであるが、そこはエッセネ派の居住地区があったところである。そこから城壁を出たところが、フラビウス・ヨセフスが記している「エッセネ門」というところである。

そんなヘロデ王が、いざイエスが生まれるということになって、どうしてイエスをそんなにまでして恐れたのか。それはメシア（救世主）であるイエスが生まれることだけを恐れていたためなのだろうか。

もちろんヘロデ王はイエスが生誕の後しばらくしてから亡くなっている。

それはあのベツレヘムとその周辺一帯にヘロデ王が出したという、二歳以下の男の子を皆殺しにさせたという忌まわしい事件の後である。

しかしこれも、実際に行なわれたのかどうかという記述はローマの歴史書に残されてはいない。つまりわかってはいないのである（ただ後に紹介するように、バチカンの地下の文書館には巻物としてヘロデ・アンティパス一世の弁護録として残っているそうなのだが）。

したがってそれは物語であって、ヘロデ王という、ときどき荒れた気性を表出する王をうまく描きあげるためにそのような話ができあがったという説もある。しかし、物語ならなぜヘロデ王のことをこのように聖書の中に出す必要があったのだろう。

そこで次の疑問が出てくる。

ヘロデ王の事件は本当だったのか

それは単に預言者エレミヤの言葉を実現させるためだったのだろうか。

『マタイによる福音書』第二章、第一七節にはこう書いてある。

「こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

ラマで声が聞こえた。

激しく嘆き悲しむ声だ。

ラケルは子供たちのことで泣き、慰めてもらおうともしない、

子供たちがもういないから」

しかし肝心の『エレミヤ書』を見ると、確かにその文章はあるのだが、

その後に次のように書かれている。

「泣きやむがよい。
目から涙をぬぐいなさい。
あなたの苦しみは報いられる、と主は言われる。
息子たちは敵の国から帰ってくる。
あなたの未来には希望がある、と主は言われる。
息子たちは自分の国に帰ってくる」

これはどういうことなのだろうか。息子たちは殺されてはいなかったのだろうか。

それよりもはるか昔、『出エジプト記』にも似たような話が出てくる。それはモーセの誕生物語である。

そこには、あまりにも増えすぎたイスラエルの人々が、これ以上増えないようにとエジプトの王が似たような命令を出す。しかしその難を逃がれるように、レビ人同士の間から生まれてきたモーセは、パピルスの籠に入れられてナイル川の葦の茂みにおかれるのだが、エジプトの王女に見つかってしまい、育てられることになるのだ。

その後は有名な映画『十戒』に詳しく出てくる。そしてこの『十戒』では、モーセを葦の茂みに隠しに来る人物が聖書に記述のあるような人物ではなくて、どうも王族を匂わせているようでもあるのだ。

（編者注＝往年のアメリカ名画『十戒』で、チャールトン・ヘストン扮するモーセがイスラエル人の大集団を率いてエジプトから脱出する途中、砂漠地帯の上空に本物の円盤形ＵＦＯが出現するのが見られて、日本のＵＦＯ研究家間で話題となった）

このように似た話はあるのだが、とにかく、ヘロデが亡くなるまでエジプトにいたイエス一家は、王が亡くなったのを夢で知ってやっとガリラヤ地方に戻ってくることができた。

そこで改めて、なぜ、ヘロデのときにもこのような話――または実話だろうか――が書かれているのだろうか。

そこに何かが隠されている

なぜこのような話を先に出したのかというと、それはこの箇所こそが、どうやらイエス生誕の謎とさまざまなマリアの謎に迫るその鍵を握っているそもそもの始まりのようだからなのである。

イエス生誕の謎

そこでまず、なぜ、イエス生誕には謎があると気付いたのかということを説明しなければならない。

それは意外にもイエスの磔刑の場面からであった。以前調べたときにも感じていたのだが、イエス磔刑の場面にはどういうわけかイエスの父親のヨセフが出てこないのである。そしてマリアと呼ばれるさまざまな女性たちの間には、どうも名前の混乱があるのではないかという印象があったのである。

その磔刑を見ていた人々をあげると〈イエスの母とその姉妹、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、クロパの妻マリア、スザンナその他の婦人たち〉

といろいろ出てくるのだが、聖書辞典その他を調べても、マリアという名前が多くて、その人たちの様子ははっきりとは見えてこない。

ただ磔刑時にイエスの母とマグダラのマリアとがいたということは、『ヨハネの福音書』などから明らかなことなのである。したがって、イエスの母のマリアとマグダラのマリアとは同じ人物ではなく、まったく違う人物であったということがわかる。

では、イエスの両親としてあがめられるはずの父ヨセフと母マリアであるのに、それがどうして多く登場してこないのだろうか。

それはイエスが「自分の両親を捨てよ」というようなことを言ったからだろうか。

両親を愛していたイエス

しかし、それは単なる聖書翻訳上の誤りであって、実際にはイエスは、「自分の両親を愛せない人が私のところに来るべきではない」と言ったのである。

ここは現代の宗教でも間違って扱われている。だって聖書にもそう書いてあるじゃないかとよく引き合いに出され、「家を捨てないとダメだ」というような変なことを言いだす人がいるものだが、本当はそうではないのである。

つまりイエスは両親を愛していたのである。それなのに聖書には両親のことが多く出てこないのである。それも母親のマリアはほんの数回出るくらいである。

まして、マリアはイエスの後の時代に起こったマリア信仰によって、あたかも聖書の中にたくさん描かれているように喧伝されることになる。

そこで、イエスは本当にその両親から生まれてきたのか。または聖書にあるように処女懐胎という形で生まれてきたのか、それとも他の人から生まれてきたのかという疑問が出てくるのである。

イエスの父ヨセフ

では、イエスの父親ヨセフはどうなったのであろうか。

もともとヨセフの存在は福音書の中では小さくなっている。それは、イエスが神の子であることを広めるための、処女懐胎という話を広めるためなのであろうか。

そして、それだからか、ヨセフは養父として描かれ、またイエス自身も、

ヨセフの子としてではなく、マリアの子となってくる。だからその点だけをとってイエスはマリアの私生児だったという話も出てくるのであるが、これは本当の話なのだろうか。そしてそのどこかに真実はあるのだろうか。

ヨセフの存在は忘れ去られ、イエスが教えを宣べ伝え始める前に亡くなっているといわれているのだが、それも聖書の中には出てこない。

ヨセフは大工であったというのだが、当時の大工というのは一つの神殿を作り上げるときには、そのどのようなことでもできた万能の技術を持っていたという。

もちろんイエスの一家は貧しかったということは聖書には出ているが、そのヨセフがひっそりと死を迎えていたということも不思議なものである。

そして繰り返すが、ヨセフが大工という建築工事に従事していたということしか特筆すべきことがないのはどういうことだろうか。

▲イエスが幼少時からすごしたナザレの町。イスラエル北部のガリラヤ高地の南部に位置する。町の北端に「マリアの井戸」がある　撮影／久保田八郎

そこで聖書とは何かということを、もう一度原点に戻って見直さねばならない。しかしそこには、それが後のキリスト教会によって、幾分か都合の良いように編集し直され、また書き直されたということしかわかってこない。

例えば元々の聖書では、マリアの処女懐胎という話はなくて、ただヨセフがマリアと結婚するようにと天使が伝えたという、それだけのことしか書かれていなかったのではないかと言う学者もいる。

そしてまた他の話では、ヨセフとマリアの二人はそれぞれ王族の子孫であったという話もあるが、こうなってくると、いったいどれが正しいものなのかということがわからなくなってしまう。

そこで、イエスの生まれについての鍵となるもう一人の人物、洗礼のヨハネを見ていかねばならない。

洗礼のヨハネはエッセネ派だった

洗礼のヨハネはイエスのように処女懐胎によって生まれたことが『ルカによる福音書』に出てくる。

それも、両親は高齢である。ましてその出産となると生命の危険さえも伴うものである。

となると、これはどう見ても後に書き加えられたものと思われる。それなら、イエスの誕生についても、そのどこかに創作があってもおかしくないだろう。

例えば明らかに創作だとわかるところは、イエスが馬小屋で生まれたと書かれているところである。しかしそれが実際には、何と洞窟のくり抜き岩屋の中の、人と馬とが一緒に生活していた場所なのである。

とにかく、生まれてきた洗礼のヨハネは後にエッセネ派になった。いや、洗礼のヨハネの生誕物語のどこかに真実があるのなら、エッセネ派の中で生まれた可能性もある。それは父親のザカリアと妻のエリザベトが、山里に住んでおり、俗っぽい宗派から離れていたことからもわかる。

そして洗礼のヨハネを宿していたエリザベトに、同じようにイエスが腹の中にいるマリアが会いにきているのである。

このように歩くことは、妊婦としては大変なことであったろう。したがってマリアとエリザベトは比較的近い距離にいたということが考えられることから、逆にエッセネ派にマリアがいたということも考えられるのである。

エッセネ派とは何か

エッセネ派というと、すぐに、あの死海からバスで行ける距離にあるクムラン洞窟を思いつくが、それだけでは

なく、エッセネ派はエルサレムやその他の地区にも広く分布して活動していた。（編者注＝エッセネ派というのは紀元一世紀頃のユダヤ人の宗教団体の一つで、厳格な誓約のもとに入団を許された。戒律を厳しく守り、財産は共有性で、独身主義、清潔、沐浴、菜食を常とし、ユダヤの律法を熱心に研究したといわれる。しかし動物の犠牲を否定したためにエルサレムの神殿への参拝は許可されなかった。クムラン洞窟の近くで修行したクムラン教団とエッセネ派を同一視する学者が多い）

ちなみに、マリアがナザレというところでイエスを生んだということは、そのクムラン洞窟からは、はるかに離れた距離だったことがわかる。

そしてその派がまた今日エッセネ派について言われているような極端な禁欲主義や菜食主義、また生涯を独身で過ごすというものではなかったようなのである。ただその派の中にもそのようなことを信条としていたグループもあったようなのだが、

とにかく、エッセネ派が宇宙的な哲学を学び実践する集団であったことはいうまでもないだろう。なぜ宇宙的なのかというと、例えばエッセネ派がしばしば使っていたという書に、『トビト書』というのがある。それはトビトという人物の人間味あふれる生活を叙情的に書き上げたものなのだが、その中には、『メディアまでの道に詳しく、一緒に行ってくれる人を探しに、トビトは外に出た。出てみると天使ラファエルが目の前に立っていた。しかしトビトには、神の使いであることがわからなかった』

という文章が出てくる。これは天使が人と同じ姿だったということを言っている。そしてこれは、スペースブラザーズが人と同じ姿なのだということを言っているのである。

そして他には、『世の始まる前に、この娘はあなたの妻として定められていたのですから』という文章がある。詳しい説明は省略するが、これは転生に関することと受け取ることができるのである。

このように当時では、いや現代でも高度に宇宙的な哲学を持って活動していたエッセネ派という集団に洗礼のヨハネがいたのである。

そのエッセネ派には、本誌一三二号で詳述させていただいたアリマタヤのヨセフ、ニコデモその他の人々がいた。そしてマグダラのマリアその他のマリアもその派にいた可能性がある。

ヘロデ王はどういう人物か

ところで、イエス生誕の話に戻ろう。ヘロデ王というのはどのような人物だったのだろうか。手元にある聖書辞典から探り出してみよう。

それによると、彼の父は紀元前四七

▼エッセネ派とみなされているクムラン教団の遺跡。すぐ右には名高い「死海写本」が発見されたクムラン洞窟がある。　撮影／久保田八郎

年にシーザーの命令でユダヤの領主となったということであり、紀元前四〇年にヘロデは二五歳のときにガリラヤ地方の領主となり、皇帝アウグストによってユダヤの王に任命されたということである。彼には一〇人の妻がおり、子供も多かったという。

ところが彼は残忍な性質を持っていて、妻やその二人の子供を殺したり、その他彼によって殺された者は多かったということである。そこで多くの子供が殺されたという話も作られたという説もある。

しかし彼は賢明であり、国政の才能もあったということで、皇帝アウグストを見習って、建築工事にとても熱心だったというのである。彼の建設したものには、カイザリヤの美しい町、サマリヤの町の再建、エルサレムの劇場や競技場、そして建設途中ではあったがエルサレムの大神殿の再建がある。聖書辞典には、ヘロデ王が、建築工事に意欲的だったことがやけに強調されて出ている。

しかし、ここでまた新たな資料を付け加えることにしよう。それは、バチカンにある「ヘロデ王がローマ議会でベツレヘムでの幼児殺しに対して答弁した」ものである。

それによると、エジプトから来た三人の賢者から、あなたがエルサレムを支配するのとは関係なく、これから後エルサレムを支配する王となるお方が生まれてくるということを聞いたので、それが怖くなって子殺しを行なったというのである。

しかしここにさえ疑問が生じてくる。では、ヘロデはなぜローマを恐れていたのではなくて、エルサレムを恐れていたのかということである。当時は宗教以上に強かったローマの元老院を恐れるのではなく、なぜ彼はそれ以上にイエスを恐れていたのであろうか。

この点では後のイエスの磔刑に大いに関係のあるピラトの方が賢明であろう。彼は元老院を意識しながら、イエスをうまく扱っていたのだから。

▲上の写真はベツレヘムの聖降誕教会の中のイエス誕生の場所。実際は大理石の床の下に原形がある。下の写真は幼児イエスが寝かされた飼い葉オケのあった場所（右側の長方形の区画）。かなり整備されていて原形のままではない。
ここは岩山のふもとをくり抜いた洞窟であって、木造の建物ではない。イエスの両親はベツレヘムのこの洞窟旅館に宿泊しようとしたが、満員のためにやむを得ず洞窟内の厩舎に仮寝して、そこでイエスを生んだのである。　撮影／久保田八郎

領主ヘロデの生まれた年

ヘロデという名のつく王はもう一人いた。それはガリラヤ・ペレアの領主であったヘロデ・アンティパス二世である。彼はヘロデ王の子であったのだが、歓楽におぼれ、義侠心があったので、イエスは彼のことを狐と呼んでいたという。

それはまるで、幼友だちのような言い方でさえある。

またこのヘロデは洗礼のヨハネに傾倒しながらも、彼を殺してしまった、とんでもない人物である。そして後にイエスが捕らえられたときにはイエスを侮辱し、嘲弄してさえいる。

ところが、彼の生まれた年がなんと紀元前四年。これはイエスが生まれた

であろうと言われている年と同じなのである。この偶然はいったい何を示しているのだろうか。

ヨセフとマリアについて

コンスタンチノープル（現在のトルコのイスタンブール）の聖ソフィア大聖堂には、ガマリエル（ガブリエル？）による記述が残されている。その文書には、イエスの両親のヨセフとマリアの様子が記述されている。

まず、彼ガマリエルはメッカ市内で二人に会ったという。それによると、ヨセフは暗い赤褐色の髪をしており、目は灰色の陰険な目つきで背が高く、気難し屋であったそうだ。口数も少なかったという。彼ヨセフはマリアが身ごもったことで悩んだそうだが、雪のように白い男（天使）に諭されて納得したという。そして帰ってその話をマリアにすると、彼女もそのような話を天使から同じように聞いたというのである。

しかし幼児のイエスを見てヨセフは言う。彼は怠け者で注意深くない。彼など王になるはずはないと。これは親がわが子を見ているからでなのであろうか。

またガマリエルはマリアにも質問している。その天使はどのようであったのかと。

するとマリアは、自分自身はそれが天使であることがわかっていたということと、まるで光がスーッと消えるようにその天使は消えていったということである。また、彼女はイエスを宿すことに対しては、まったく天使の存在は関係していないということも述べている。

そして父のヨセフとは違って、イエスはヨセフよりも利発で口が立つようだということを述べている。ただ、彼女がイエスのことをやけに褒めたたえ

◀トルコ・イスタンブールの聖ソフィア大聖堂。六世紀に建立された初期ビザンティンの名建築。下は創建当時の壁画。中央はイエスを抱くマリア。

撮影／久保田八郎

るところが出てくるのだが、そこがなぜか誇張して書かれているようではある。

また、イエスはたびたび一人の偉大な指導者、つまり律法に詳しくて預言者でもあった人物と共にいたということである。これはいったい誰だったのだろうか。

ベタニアのマリア

そしてまた、ここでの話からはずれるが、ベタニアのマリアについても書かれている。そこには彼女はイエスとの関係について、まったく恋人のようなものではなく、奉仕する友達のようであったというのである。

それでは、これまで神学者その他の人々の間で言われてきたような、マグダラのマリアとベタニアのマリアとの混乱はどう解決していけばよいのだろうか。マグダラのマリアとベタニアのマリアとは同一人物なのだろうか。それとも別人なのだろうか。

その解決の糸口はさきほどの洗礼のヨハネがいたエッセネ派にある。

なぜなら、死んだ兄のラザロをイエスに蘇らせてもらったベタニアのマリアは、イエスが訪問したときに丁重なもてなしをするが、それが後世になって、その中に漂っていたたった一つの言葉によって真実が覆い隠されるに至ってしまったからである。

それは、イエスに対する「愛」という言葉である。その愛という言葉を注意深く調べてみるなら、そこには、男女の間で使うものではなく、もっと高度な宇宙的な愛が感じられてくる。

そしてそれを裏付けるかのように、フラビウス・ヨセフスは、エッセネ派はどのような客人をもまるで自分の家族のようにもてなしたという記述を残しているのである。

つまり、ベタニアのマリア、マルタ、そしてラザロの丁重なもてなしは、彼らがエッセネ派であったことを示しているのだ。

そうなると、このベタニアのマリアが現代でさえも混同されているマグダラのマリアとは別な人物であったということがはっきりと見えてくる。

まとめ

そこでこれらのことを総まとめして、不可能なところを省き、透視と印象に従ってまとめてみることにしよう。

まず、イエスはマリアの子として生まれたのだが、それは精霊によって身ごもったのではなく、ましてや現代のような不妊治療のように試験管での精子と卵子の結合や代理母としてのものではない。それは現実の地球人を父親とする子として生まれて来た。

なぜなら、マリアは精霊の機械的な?操作を受けてはいないようであること（そんなことは現代人だから考えてしまうおかしなことなのかもしれない。きっとスペースブラザーズも笑っていることであろう）。

私の透視では、母のマリアは貴族的な高貴さと心の暖かさを感じる。それは後の世にマリア信仰が生じたことからも考えられる。つまり、誰でもが、過去の波動を感受することができるものであって、その何千、いや何億という多くの人々が感受したマリアの印象には、その最低ラインに於ても確かさがあると認めたいのである。

そして、イエスはヨセフの子ではないだろう。なぜなら、それは精霊によって身ごもったとヨセフ自身が言っているのだから。

では、誰の子なのか。そこには、ヨセフが「大工」であったというキーワードが問題になってくるのではないかと思われる。しかしそこに「ヘロデ王」という言葉が出てくるのは、どういうわけだろうか。私は、イエスの父親はヘロデ王か、またはその王と関係のある者だと感じるのである。

またさらに、現代においても、父ヨセフの印象が薄いということは、ヨセフという人物が実在していたのかどうかわからない点でもある。しかしイスラエルに行くとイエス一家の住んでいた跡も残っている。それはどう説明すればいいのだろうか。

洗礼のヨハネはイエスよりも先に生まれたのであろう。しかしその洗礼のヨハネとイエス、そしてヘロデ王の子供のヘロデ・アンティパスは同じ頃に生まれたという何か不思議な鍵をここでも匂わせている。

またヘロデ・アンティパスが洗礼のヨハネを殺してしまうが、ここでイエスの出生の秘密を洗礼のヨハネが知っていたと思われるのである。

さらに、イエスが子供の頃に常に一緒にいたというマスターのような人物とは誰だったのか。私は、彼がスペースブラザー（友好的な異星人）だったと思えてならない。イエスはその人物からさまざまな宇宙の法則を学んだのではないだろうか。

そしてこれらのことには、壮大な転生のドラマとスペースプログラムとが行なわれていたことを考えざるを得なくなってくる。

それは現地に行って改めてその重要性を肌で感じるものではあるのだが。

（編者注＝筆者遠藤氏はもっと詳細な線を明確に把握していると思われるが宗教界を意識してか相当に迂遠な表現が目立つようである。その透視力により画期的な説を打ち出したのであるから無理からぬ面もある。しかし宗教界の幻想はイスラエルで砕かれる。イエスが誕生した『馬小屋』はどこにあるのかと聞く聖職者が多いといって現地のガイドさんが苦笑していた。木造の小屋だと思っているらしい）　♀

GAP短信 GAP NEWS

●本年度日本GAP総会、大盛況

かねてから予告されていた日本GAPの今年度の総会は、去る九月二二日に港区の機械振興会館で開催されて、大盛況裡に終了した。当日は講師として塩谷信男医学博士が「大宇宙の無限の力による長寿健康法」と題する講演を行ない、聴衆に多大の感銘を与えた。塩谷博士は九五歳の高齢ながらゴルフも行なうという驚異的な体力の持ち主。この秘訣は独自の正心調息法という瞑想法によるといい、この実習を多年続けてこられた博士は、健康維持ばかりか超能力も開発されている。

夜は同会館で立食形式の大夕食会が開催され、和気あいあいたるひとときをすごし、翌日は都内観光を三コースに分かれて実施した。

●東京本部月例セミナーのビデオ映写好評

日本GAP東京本部月例セミナーは毎月第一日曜日の午後一時から五時まで、港区東京タワー前の機械振興会館六階六七号室で開催されるが、今年八月からビデオ映写も行なっている。去る九月一日のセミナーでは、アメリカのUFOビデオを映写したが、その中で生前のアダムスキーが記者団に話している姿が数度出てくる珍しい光景が映写されたし、またアダムスキーが自ら8ミリムービーカメラで撮影した円盤型スカウトシップが空中を乱舞する場面も出てきて出席者を驚かせた。今後も各種の珍しいビデオを映写する予定。多数出席されたい。

●日本GAP海外研修旅行、来年度より再開

日本GAPは一九七九年に第一回の海外研修旅行で「アメリカ・中米の旅」を実施して以来毎年夏に世界の古代の遺跡やアメリカのアダムスキー関係地等を視察してきたが、不景気のために一昨年八月の第一六回「アメリカ、メキシコ・コスタリカの旅」でもって一時中止していた。

しかし景気の向上や新入会員の増加等にかんがみて、来年度に第一七回の海外研修旅行を再開することに決定した。ただし夏期は航空運賃が高騰する時期で従来は一〇日間で六〇万円程度の費用を要したが、来年度は旅行会社を変えて期間も一一月の二連休をはさむ一週間とし、費用は三〇万円代に押さえる予定で検討を進めている。肝心の訪問国はイスラエルとし、エルサレムのイエス関係の遺跡、ベツレヘム、クムラン洞窟とクムラン教団遺跡、ナザレ、死海での遊泳（塩分が濃いので絶対に沈まない）、風光明媚なガリラヤ湖の遊覧船による周遊、ティベリヤスの町等、旧新約聖書の世界をたっぷりと楽しめる。現地では専門のガイドと久保田会長が懇切丁寧に説明する。

日本GAPはキリスト教とは無関係だが、イエスはもと金星から転生してきて宇宙的な哲学を唱道した偉大な指導者であり、磔刑（たっけい）後は再び金星へ帰還したという宇宙情報があるので、それを偲ぶためにイスラエルの旅を実施するのである。日本GAPは過去に四度イスラエルの旅を実施したのでこれで五度目となり、イスラエル訪問はこれが最後となる。詳細予告は来年の本誌一月発行予定の一三六号かまたは四月発行予定の一三七号に掲載するので今から準備を進めて多数参加されることを期待している。日本GAP会員以外の方でも参加出来る。

●福山支部大会、来年五月に開催

日本GAP福山支部は、来年五月二五日（日）に第一回の大会を福山市で開催する。会場は同市内の広島厚生年金福祉センター「サンピア福山」で、久保田会長が出張して大講演を行なう。このために福山支部一同は張り切って準備中。詳細予告は来年一月発行予定の本誌一三六号に掲載の予定。中国地方の会員の方々の多数の出席が期待される。

●黎明会、大活躍

日本GAP内の傘下グループである若手集団「黎明会」は日本GAPが発展を遂げるための大活動を展開している。津田篤孝代表のもとに加藤純一、西川太、大根田匡史、岡田茂、その他の諸君が結集して会長の援助、月例セミナーの準備その他で献身的に活躍しており、GAP創立以来このような素晴らしいグループは初めてだと会長を感嘆せしめるほどの優秀な青年達の集まりである。今後の成長が期待される。黎明会は「ブルーウインド」と題する月刊誌と、かわら版と題する一頁の速報版を出している。希望者は左記へ申し込まれたい。

〒235
横浜市磯子区磯子二―二五―四
第一松本コーポ　二〇五
大根田　匡史（おおねだ　まさし）
TEL　045―761―9550

●訂正のお詫び

本誌先号（134号）の11頁に掲載したビデオ「宇宙人解剖フィルム完全版」の発売元であるポニーキャニオン社の電話番号が違っていた。申し訳ない。正しい番号は左記のとおり。

TEL　03―3555―6671

右番号は同社営業部

●日本GAP特別維持会員制度

日本GAPには普通会員とは別個に特別維持会員制度がある。これに加入すれば会長の月刊エッセイ「意識の声」が毎月贈られる。詳細については日本GAP本部にハガキで「特別維持会員案内を送れ」と申し込まれればよい。「意識の声」は久保田会長が毎月執筆する随筆で、A4版4頁に及ぶオフセット印刷の小冊子。ユーコン誌に掲載しきれない宇宙哲学の指導や珍しい記事が満載してある貴重な文献であり、これを綴じて保存している人が多く、GAP関係の重要な資料である。

〈宇宙〉

■型破り銀河を発見

写真はスペイン・カナリア半島にある天体物理学研究所のアイザック・ニュートン望遠鏡がとらえたNGC733ーという名の銀河。この銀河は地球から三〇〇万光年のかなたにあり、同研究所の科学者らの分析により、中心部と円盤部が逆方向に回転していることが最近わかった。（6・7読）

■地球から一番遠い星

地球周回軌道で宇宙を観測中のハッブル宇宙望遠鏡が、これまでに観測されたうちで最も遠くにある天体をとらえた。地球から一四〇億光年先にあるとみられ、宇宙誕生から一〇億光年もたたない時期の、星がまさに生まれようとしている輝きが見えた。ニューヨーク州立大学のケネス・ランツェッタ助教授らのグループが、同望遠鏡の観測画像を分析した結果わかったもので、科学雑誌「ネイチャー」の最新号に発表した。（6・27読）

■日本版シャトル実験機、自動着陸に成功

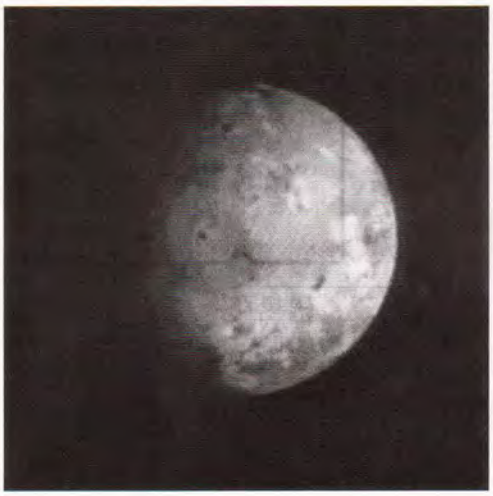
来世紀初頭の実現を目ざす日本版無人スペースシャトル「ホープ」の小型実験機「アルフレックス」の自動着陸実験が、七月六日の午前、オーストラリア南部の砂漠地帯ウーメラの飛行場で行なわれた。機体は滑走路に無事着陸し、科学技術庁航空宇宙技術研究所と宇宙開発事業団は「実験は成功」と宣言した。

実験機（ホープの約三分の一、全長六・一メートル）は大型ヘリコプターで高度一五〇〇メートルまで吊り上げられ、各種の機能を作動させながらグライダーのように滑空して着陸し、予定どおりのデータを取得した。（7・6毎、読）

■燃える衛星イオー木星探査機が撮影

NASA（米航空宇宙局）の木星探査機ガリレオが木星の衛星イオに接近、表面の様子を鮮明にとらえることに成功した。写真は六月二五日に撮影したもので、一七年前にボイジャー1、2が観察したときとは劇的に変容、活発な火山活動と硫黄分の多い火山からの噴出物で覆われていた。特に白い部分はマスビという活火山。（7・19読）

▼スペインのアイザック・ニュートン望遠鏡がとらえたNGC7331という名の銀河。3百万光年の彼方から雄大な姿を見せる。



◀木星探査機ガリレオが撮影した衛星イオ。白い部分は活火山。

■**火星に微生物がいた?**

NASA（米航空宇宙局）は八月六日、一万三千年前に地球に落ちた隕石を分析したところ、数十億年前の火星に微生物が存在したことを示す「有力な証拠」が見つかったと発表した。この隕石は一九八四年に南極で見つかり、NASAの研究者らが分析していた。これまでの火星探査機などによる研究では、火星に水が存在していたことは明らかにされているが、生物の存在に関しては確認されておらず、NASAでは「驚くべき発見」としている。（8・7毎、読）

■**火星の生物の化石か**

NASAは七日、火星からの隕石に生物の痕跡らしいものを発見したNASAのデービッド・マッケイ博士らによる記者会見を行ない、「火星に生物が存在した事実を裏付ける画期的な発見」と正式に発表。世界各国の科学者に科学的な検証作業への参加を呼びかけた。

◀火星の隕石から見つかったチューブ状の構造の電子顕微鏡写真。大きさは人の毛の百分の一。

発見チームでは、「新発見の根拠」として、隕石の中に①生命活動を推定させる炭素系分子があった。②地球上で原始的な生物体が生成したのと同じ無機化合物が含まれる③バクテリア状のミクロ生物体と推定される化石の存在、などを挙げた。（8・8読、毎）

■**初の国際協力衛星みどり搭載H2ロケット打ち上げに成功**

宇宙開発事業団は八月一七日午前一〇時五三分、鹿児島県種子島宇宙センターから、地球観測衛星アデオスをH2ロケット4号機で打ち上げた。一六分後、高度約八〇〇キロで予定どおり太陽同期準回帰軌道（円軌道）へ投入、打ち上げは成功した。アデオスは日米仏の観測機器を搭載した事業団初の国際協力衛星。オゾン層の破壊、温暖化など深刻化する地球環境を監視・観測する。（8・17毎）

■**木星の衛星エウロパに水?**

NASAは一三日、木星探査機ガリレオが撮影した木星の衛星「エウロパ」の画像分析から、水が存在する可能性があると発表した。

エウロパはイタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイが発見した四つの「ガリレオ」衛星の一つで、月とほぼ同じ大きさ。火星と並んで生命の存在の可能性があるとされてきた。

エウロパの表面は、大地の大部分が主に氷の層で覆われている。NASAによると、ガリレオ探査機が一五万五千キロ上空から撮影した氷の層は亀裂が生じており、割れ目が線のような模様に見える。割れ目をくわしく分析した結果、これらの氷の断片の表面はかなり滑らかで、下には「解けた水がかつて存在したか現在もある可能性がある」という。今後三回にわたり、上空六〇〇キロ付近まで接近してさらに詳しく調べる予定。（8・14毎、読）

■**米大統領、火星探査に総力**

クリントン米大統領は八月七日、火星に原始的な微生物が存在した形跡が隕石から発見されたことで声明を発表。「確認されれば科学上最も衝撃的な発見になる」と調査の意義をたたえ、米科学界の総力を挙げて調査を進める様指示を出した。

◀木星探査機ガリレオが撮影した木星の衛星「エウロパ」の画像。分析の結果から水の存在する可能性があると発表された。

NASAは今年一二月の一号機を皮切りに今後一〇年間に一〇機の無人火星探査機を打ち上げる計画だが、大統領はこの一号機が一九九七年7月四日（米独立記念日）に火星着陸を果たす予定だと言明。（8・8毎）

〈自然〉

■**隕石衝突地に高地熱**

約六五〇〇万年前、恐竜絶滅の原因となっていたとされるメキシコ・ユカタン半島の巨大隕石衝突を調査中に東大調査隊は八月三一日までに、衝突の中心とみられる地域で非常に高い地熱地帯を発見した。この現象は隕石の衝突により地表から深さ約三〇キロのマントル層近くまで達する巨大なクレーターができたためと同調査隊は分析。隊長の松井孝典助教授は「衝突の結果、マントルが持ち上げられたとしか考えられず、非常に興味深い発見」としている。（8・1読）

■**小田原地震七〇年周期説**

九月一日は防災の日。地震災害などに備える日だが、関東では東海地震と並び、小田原地震（神奈川県西部地震）を含む首都圏直下型地震が心配されている。特に小田原地震はほぼ七〇年ごとの再来時期の真っただ中。この地震が起これば小田原を中心に多数の犠牲者が出、新幹線など列島東西を結ぶ大動脈も切断されかねない。

古文書によると、小田原城は江戸時代から再三、地震被害を受けてきた。このうちM6～8程度の大地震は驚くほど規

則正しく、平均七三年ごとに起きており、今年がちょうど七三年目。この周期説を一九七七年に指摘した石橋克彦・神戸大教授（当時は東大助教授）は、「今後一〇年程度のうちに発生する可能性は高い」と話し、抜本的な防災対策を取るよう警告している。（8・28読）

■「発掘された地震痕跡」発行

全国の自治体の考古学専門職員らでつくる「埋蔵文化財研究会」と、阪神大震災の被災地で埋蔵文化財保護の活動をしている「埋文関係救援連絡会議」が、発掘現場などで見つけた古い地震の跡のデータを、資料集「発掘された地震痕跡」にまとめた。集めたのは四〇都道府県の三七八例。古い地震の痕跡から、その地域で起こる地震の規模や発生周期などを予測する地震考古学の貴重な資料になるだけでなく、液状化が起きやすい地域を把握する手がかりになるなど、防災行政に役立ちそうだ。（8・30朝）

■台風予報ー今春登場の気象庁の新ソフト

気象庁は今春から天気予報に新しいコンピューターソフトを使っているが、台風シーズンを迎え、進路予報がどれくらい的中するか、その実力が試されることになる。昨年の台風で計算すると、精度は四割ほど高まった。さらにこの新ソフトなら現在の二日先までの台風予想を三日先まで拡大できる可能性があるという。

新ソフトは地球を覆う大気を水平に五五キロ間隔、約六〇〇万個の格子に区切り、それぞれの格子点での温度や風速などがどのように変化するかを計算する。これで台風の進路予想の水準は「世界最高のヨーロッパに追い付いた」という。（8・7朝）

〈ハイテク〉

■思っただけでスイッチが入る

心の中で思っただけで自由にスイッチを入れたり切ったりする装置が開発された。開発したのはシドニー工科大学のグレイグ助教授とカーカップ博士。「マインドスイッチ」と名付けられたこの装置は、頭の中のアルファー波の変化を頭に付けた電極（脳波測定のような電極）で感知し、スイッチのオン、オフを行なうというもの。開発の目的は障害者のための器具に使用するとのこと。すでに特許の申請もし、イギリスなどから取引が入っているという。九五パーセントの人が特別な訓練なしに使用できるという。（6・6NHK）

■手のひらから世界中へ発信

地球上のどこにいても、手のひらサイズの端末（携帯電話）から電話がかけられる人工衛星のネットワークによる「衛星携帯電話サービス」が実用化まで秒読みの段階に入った。今秋には米モトローラ社の提唱で始まった「イリジウム計画」の最初の衛星が打ち上げられる。

普通の通信衛星は高度が高すぎて電波が弱く、携帯電話には不向き。そこでもっと軽くて軌道の低い衛星を利用すると、携帯電話から発信された電波は数個の衛星間でリレーされ、世界中の携帯電話に送られる。地上局を通じて普通の電話にも接続できる。

この衛星システムにはイリジウム、グローバルスター、オデッセイ、ICO等が競合し、全世界に一分間三ドルかそれ以下でかけられる。九八年秋からサービスを開始する。（6・26読）

〈医学〉

■コンブはやっぱりガンに効く

コンブやワカメなど褐藻類に含まれる多糖類の一種「Uーフコイダン」に、ガン細胞のアポトーシス（細胞の自殺）を引き起こす作用があることを、宝酒造バイオ研究所（滋賀県大津市）と糖鎖工学研究所（青森県弘前市）が共同研究で突き止め、六月一七日発表した。

褐藻類を常食するとガンにかかりにくいことは経験的に知られているが、原因物質を特定したのは初めて。今秋、横浜市での第五五回日本ガン学会で報告する。

バイオ研の加藤郁之進所長によると、Uーフコイダンは乾燥コンブに約一パーセント含まれる多糖類。Uーフコイダンは腫ようを小さくする効果を持つとされてきたが未確認だった。そこで、結腸ガン細胞約一万個を入れたシャーレに、コンブから取った一リットル当たり一グラム濃度のUーフコイダン液を注入。この結果、二四時間後にガン細胞は半減、七二時間後にはほぼゼロになった。これはガン細胞のDNAが分解され、細胞も小さくなるなど、アポトーシス特有の現象を示した。（6・18毎、20読）

■血液使わぬ止血剤を開発

人間の血液から作らないのでウイルス感染や拒絶反応の心配のない止血剤を、京都大学生体医療工学研究センターの筏（いかだ）義人教授らが開発した。年度内にも臨床実験を始める。

これは活性化ポリLグルタミン酸と呼ばれる高分子化合物で、ゼラチン水溶液と混ぜると、体温でも素早く糊状になり、止血する。その後は自然に溶け、尿として排泄される。

従来の止血剤は、蛋白質のフィブリノーゲンとトロンビンを混ぜた「フィブリン糊」が使われているが、いずれも人間の血液から作るため、拒絶反応を起こす例があるほか、ウイルス感染の可能性も否定できないという。

新しい止血剤はラットを使った実験でフィブリン糊よりやや高い止血効果が確かめられており、心臓や肝臓など多量に出血する手術に効果を発揮しそうだという。（6・28朝）

■画期的な「エイズ新療法」

カナダ・バンクーバーで開催中の第一一回国際エイズ会議で、七月八日、米ハーバード大学医学部治療スタッフが、複数のエイズ治療薬を組み合わせた併用療法で、飛躍的な治療効果が確認されたと発表した。

効果を発表した同大学のスコット・ハマー博士によると、エイズウイルス（HIV）が感染した細胞の中で増殖するのを抑えるプロテアーゼ阻害剤と呼ばれる新しいタイプの薬の開発が決め手となったとし、これに、従来エイズ治療に使われてきたAZTなどを組み合わせると、ウイルスを激減させるなど顕著な効果があったという。

ハマー博士は「半年前までは夢物語だった成果だ。問題は新薬の価格が高く、患者やHIV感染者が集中する開発途上国での対策に難点があること」と語った。

しかしHIVウイルスが増殖メカニズムを微妙に変化させる可能性を否定できないことなど未知の部分も依然多く、同博士は「薬剤の慎重な処方が大事」としている。（7・9読）

♀

My Disease was Cured
by Cosmic Philosophy
by Yasunobu Nishizaka

アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快

西坂安信（福島県）

平成八年三月一三日に、隣の病棟の日本GAP会員・西坂智之君（一九歳）より「UFO contactee」誌を借りて、今まで読むとは思われなかった事が、なんの意味かを感じるままに読書しました。

この宇宙には別な惑星の文明と創造性があると述べられており、そのなかで反復思念法という「癒しの言葉」について説明されていて、宇宙の創造パワーを念ずることにより、すべての病気が回復すると記されています。

ジョージ・アダムスキーの癒しの言葉を、心の中または天体にむかって、リズミカルに数回思念することで健康になってゆくとありました。

そこで私は床について前述の「癒しの言葉を何回も念じました。

次の朝、六時に起床しましたところ、不思議に身体の神経性病気の苦しみが大変軽くなっているのを感じました。でも昨夜の眠薬のせいかとも思いましたが、久しぶりに安らぎました。

隣の智之君と朝顔を合わせると、彼は「西坂さん。今日はたいへん良い顔をして、顔のシワが少しなくなりましたね」と言います。

私はそのとき、宇宙の癒しの言葉のせいか、またはお薬のせいか、半信半疑でした。病気のために氷を左の背中に乗せたような冷たい感覚が半減したのです。

そのときなんとなく思い出しました。昭和四一年頃、長男佳晃（当時六歳）、長女知子（三歳）の二人が、光る物体三機が北東に向かって飛来しているところを見て恐ろしく感じたのか、「怖いよー」と言って家に飛び込んできたのです。場所は元福島地方裁判所のあった所で、現在は新浜公園になっています。子供らは今でも覚えております。

それから数年後、テレビや書物で未確認飛行物体が存在していることを知って確信しました。

前述の話にもどりますが、三月一三日に初めて病院から外出許可を頂き、午前一一時三〇分に帰宅しましたところ、妻が私の顔を見た瞬間、「お父さん、顔色がとても良くて二度惚れした」と言うのです。

重なる変化の言葉を耳にして、自分で鏡を見ましたが、自分にはわかりませんでした。そしてふだんは嫌いなゲームを孫娘（八歳、小学二年生）と二時間ほどお相手をして遊び、孫娘も満足したようでした。その二回の顔色の変化が本当ならば、と驚いています。自分にはわからない現象が他の人には見えるのかもしれません。

これは昔の話ですが、私と家族を含めた四名と、同じ職場の今は亡き同僚の「黒羽さん」とで実際に体験した話です。

昭和四〇年二月二四日午後四時半から六時頃にかけてのことです。妻と長男佳晃が腰の浜町のヨーク紅丸からの買い物帰りのとき、西側の吾妻小富士山脈の方面より東方面に進行中のUFOが見えるという話し声がして、階段を上りながら二人で語る言葉が、浴室に入りかけていた私の耳に聞こえてきました。

私はその瞬間、昔のUFOを思い出し、浴室の窓をあけて吾妻小富士山脈の方向を見ると、約三五度の夕空に一機のUFOを目撃し、少しグラグラするような状態で静止しているのです。

機体の底はオレンジ色で、ちょうどガスライターの炎のような色です。私は寒さを感じ、服をまとい、再び同じ方向を見ると、大きさは約二〇メートルぐらいで、東にむかって音もなくスーッと移動し、私宅の真上を同じように五回進行しました。

そして阿武隈川の上空で、あの複雑なジグザグ飛行をした物体は、白色光になって、まるで暴れているように見えました。そして南の方向へスーッと移動し、消えてしまいました。

これまでかと思っていると、UFOの消えた方向から旅客機が赤色灯火を点滅しながら北東に向かって飛行し、私の頭上を過ぎると、再び南の上空よりUFOが現われて、輝きを増して超スピードで東の方向に一直線に飛びましたが、その速さたるや驚くばかりでした。そのUFOを目撃してから消えるまでに約七分かかりました。

その後、この話を聞いた友人の茂木さんが、翌日車で運転中に目撃した体験の報告があり、本人もUFOの存在を確認しました。

現在も長男、長女が数回目撃しております。私もUFO contactee誌を読んでから、不思議と偶然に好転しているのが感じとれます。

私は子供の頃から天体に興味をもち、UFOの出現によってなお意識的になり、今年は二万年おきに地球に最接近する百武彗星を入院中の方々と共に目撃し、深く感銘致しました。

最後に「癒しの言葉」を念じ、常に人間として少しでも他人に友好的な事を行なうように実行し、すべての面に生かすことができるならば、友好的な異星人の方々に助言を頂くことも可能になるかも知れないと思っております。

▲筆者、西坂安信氏。

I Saw an Orange Object Flying Very Fast
by Ichiro Horishita

オレンジ色の光体を目撃

堀下一郎（富山県）

ここに報告申し上げることは、たわいのない事かもしれませんが、私どもにとってはハッキリと現実の物として見ることができました。以下、見たとおりに記します。

◎四月二八日（金）

会社の帰りの打ち上げ決起大会ということで、宴会、二次会、三次会と出て、帰りは午後一一時三〇分頃となり、GAP会員の山口郁夫氏に車で迎えに来てもらう。帰り道、ラーメンが食べたくなったので、二軒寄ったが、暗かったので、他のラーメン屋へ入り、そこで一休みした。

◎二九日（土）

それからガソリンスタンドへ入り、給油を終えたが、そのときなんとなく気分が良くなったので、UFOを見に行こうかと誘った。すると山口氏はOKしてくれたので、近くの小杉カントリーゴルフ場へ向かった。

しかしそこは門がしまっていて入れなかったので、近くにある太閤山カントリーゴルフ場へ直行した。そこはなぜか門が開いていた（後日見に行ったが門はしまって入れなかった）。それで駐車場で車を停めて観測にはいった。

夜中の一時過ぎだったように思う。あたりを見回すと、星が多くてきれいだった。北側を向くと、北斗七星と北極星がきれいに見える。（UFOに）出てほしいなーとなかば期待しながら星を眺める。

しばらくたって呼びかけの言葉を思い出して、繰り返しとなえた。隣で山口会員が空を眺めている。

少し時間をおいて山口会員が西の空に点滅しながら飛行する物があると言った。見ると明らかにジェット機とは違う飛行物体が飛んでいる。

それは音もなければ、遠いはずなのに光が強くて明るい。そしてジグザグに光が点滅してゆく。テレポーテーションのようであった。

また速度が異常に速いのである。ホタルがフワーッと行くような感じである。正面の空（北西の方向）を見たとき、色が変わっていった。白色からオレンジ色に変わったのがはっきりとわかった。山口会員は赤色に見えたと言っていた。点滅の間合も短くなっていった。

そして正面を過ぎると、また白色にもどり、雲間に隠れ、色が見えなくなってしまったが、しばらくしてからまた見えて、二〜三回点滅したあとはみえなくなってしまった。

あとから思ったが、大変に速度が速いのである。昼間にジェット機が飛ぶ時間と比べると非常に速いし、音もない。そして気分がリラックスして良かった。なぜ正面のところで色が変わったのか、気になるところである。

A Long Blue Object over Tokyo
by Toshiko Fujiwara

東京上空の細長い物体

藤原敏子（東京）

一九九五年三月一三日のことでした。自宅の居間にいてなにげなく空を見上げましたら、そこを水色の細長い物体が音もなく通過したのです。

アッと思い、立ち上がって窓近くへ寄りました。自宅の前に隣の二階家が建って、空をさえぎっています。それで窓から二階家のとぎれる空を見に行ったのです。するとやはり物体は飛んでいました。

音はしませんからヘリコプターではありません。形はちょうど鉛筆の短い物のような形で、細長いだけです。翼もプロペラもありません。しかし南から北へアッというまに飛び去ったのですから、飛行船や気球でもありません。胴体には字も絵も描いてはありませんでした。ただ胴体のとてもきれいな青い色が印象に残っています。

とっさに私はきっと新しい形の飛行機なんだろうと思ったのですが、あとから考えると、やはりあんな飛行機はないと思いました。

そのうちにまた現われるかしらと手元にカメラをおいて心待ちしていましたが、その後は見えませんでした。

ところがユーコン誌130号の三三頁に、私が見たものとそっくりの絵が出ていました。それは編隊ですが、私の見たのは一機です。そして私は夜でなくて昼間見たのです。写真を撮ったわけでもありませんし、だいぶ時間がたっていますが、私の記憶を絵に描いてみます。これはいったい何なのでしょうか。

Adamski-type Flying Saucers Appear in Circular Formation
by Shiro Sato

多数のアダムスキー型円盤が円形編隊で出現！

佐藤史朗（北海道）

いつも私達をご指導下さいまして有難うございます。実はUFOの目撃報告なのですが——。

今から一〇年ぐらい前なのですが、当時僕は名古屋の守山区の中志段味という田舎っぽいところに住んでいました。当時僕は会社での人間関係に悩んでおり、そしてストレスで精神的調子をくずしていました。

ある夜、仕事が終わって家に着いてから、上空でパッとオレンジっぽい光が輝いたので夜空を見ました。

そしたら三つの球形着陸装置がオレンジ色に光るアダムスキー型円盤が、一〇数機、円を組んでいました。

しかしそれはかすかに見える程度だったので、錯覚か目の涙腺のせいだろうと思っていましたが、円盤の輪の編隊はパーッと広がってゆきました。そしてそれを数回くり返しました。

そのとき、「あー、人間関係は全体の輪を作ればいいのだな」と思いました。

そして家の中に入って二階の自分の部屋から上空に向かってハンカチを振りました。

翌日の午前中、起きてから部屋の窓の方でガシャッという音がしたので、見てみました。まだカーテンをしめっぱなしだったのですが、ボタンの大きさくらいの光る超小型UFOが、一〇数個、円形を組んでパーッと広がって窓ガラスから離れて行きました。

また最近では札幌に引っ越してきて、九四年の一月にある病院に入院しました。またもや精神的調子をくずして、神経科に入院したのですが、外出も外泊も許されず、まいってしまいました。

そんなある日、病室の窓の方へ行って午後の満月を見ていました。

そしたらそのとき、満月の下の方を米粒のように光るUFOが五機、編隊を組んで右の方から左の方へゆっくりと飛んで行きました。

そのとき五機だったUFOが一機合体して四機になりました。語呂合わせで「五月一四日」と記憶しておきました。そしたら本当に五月一四日に外泊許可がおりました。しかし、なんでこんな僕にUFOが現われてくれたのか、僕は忘れられていないのかと思い、また深く悩んでしまいました。

I Have Witnessed strange Phenomena
by Tai Watanabe

不思議な現象を体験

渡辺　貞（山形県）

●イラストは筆者による。

アダムスキー全集に出会いましてから、いろいろな現象が起こりまして、アダムスキー哲学は物凄い不思議な哲学だと感じます。以下、私の体験を記します。

一九九四年八月

八月上旬頃、自宅前で夕涼みをしていますと、目の前に霧のような物が見え始め、気温が高いために顔から水蒸気が出ているのだと思い、気にしないでいますと、何日かそういう日が続き、その後、目の前が何も見えなくなるようなことが何度か起こりました。またタバコの青い煙のようなものも見えました。

一九九四年八月

窓から向こうの建物をなにげなく見ておりましたところ、屋根には会社の看板があり、その看板に金の輪が見え始めて、その看板を行ったり来たりして何度か移動し、その金の輪が消えて、今度は黒っぽい柱のような物が重なり合って卐のような物も見えました。

そのときは変な物が見えるぐらいにしか思ってはいませんでしたが、一週間後に建築工事が始まり、建物の鉄骨が見えたのだと思いました。

一九九五年五月中旬、午後九時頃

自宅にて用を思い出し、そこへ行くと窓を明ける習慣になっており、夜空を見ていますと、屋根の右端から光る物体を確認しました。

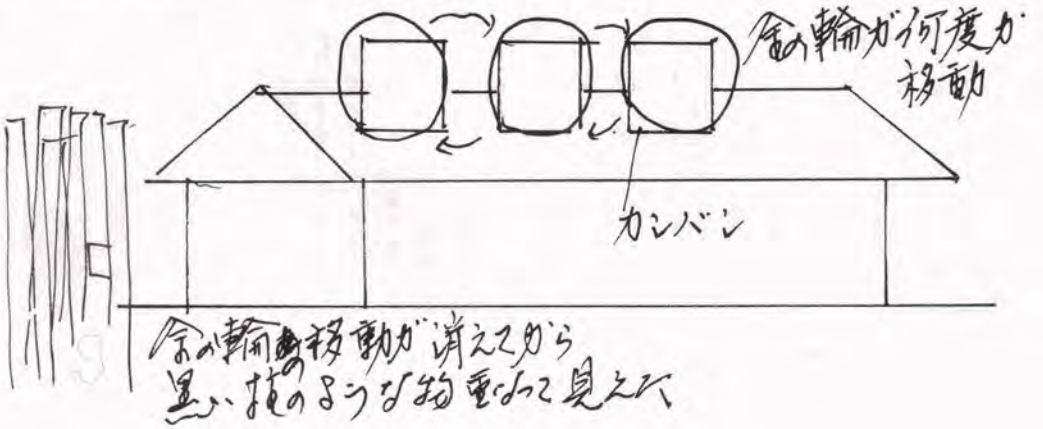
私には赤？オレンジ色とムラサキ？ブルーのように見えました。交互に色を変えながら風に揺れるようにフッフッとゆっくりと紙の落下傘のように右の屋根の端あたりから左の屋根の端で消えました。

一九九五年一一月一七日、午後一〇時頃

自宅前で夜空を見ていますと、頭の上で光る物を感じ、見上げますと、お月様の三分の一ぐらいの大きさの物体を確認。確認すると同時に消えました。

一九九五年一一月一九日、午後一〇時頃

一七日に見ました光る物体よりひとまわり小さな物体を確認。確認と同時



に消える。自宅前にて。

一九九六年二月二四日、午後九時五五分頃

南から西にかけて最初はオレンジ色か金色で三秒間ぐらい光る物体を確認。それはエメラルドグリーンからブルーに変わり、約四秒間目撃した。

色が変わったときに物凄く美しく感じたが、瞬間的に消えた。その物体の真ん中辺から尾にかけて無数の光体があるのを確認。

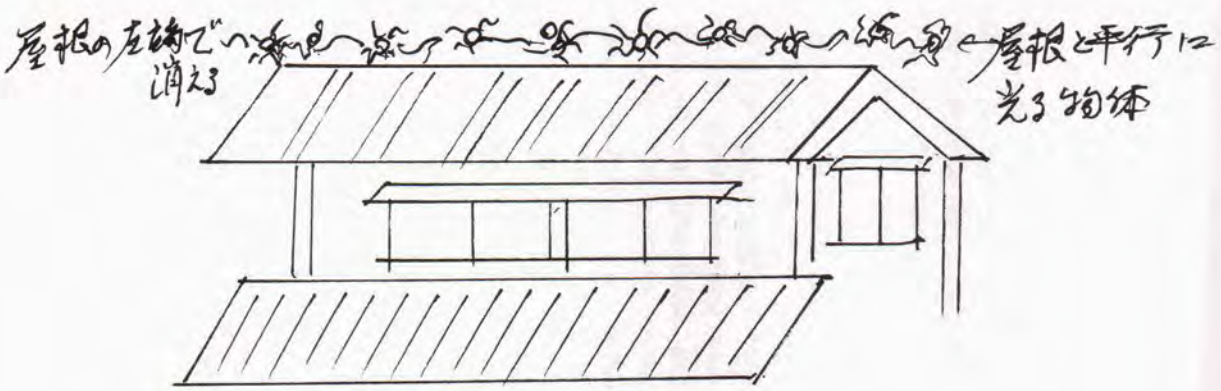
一九九五年一一月二三日、午後七時四五分頃

朝から小雪が降り、帰りには三～四センチぐらいの積雪。今年になってからの初雪です。

私は車を運転しながら直角のカーブを曲がり、一〇〇メートルぐらい走った時点で急にスリップした瞬間に「車が倒れる、畑に落ちる」と、はっきりと声なのか印象なのか、とにかく感じたあとは何もわからない。

気がついたときには、道路の端の一〇センチないし一五センチぐらいの内側の所でピタリと止まっていた。何が何だかわからない。

車をUターンしてスリップの場所をライトで照らしてみた。縦横無尽に円を描いて、タイヤの跡だけがはっきりと残っていたのです。道路の端に止まった跡にはブレーキの跡は全くありませんでした。なぜ車が自動的に停車したのか、全くのナゾです。

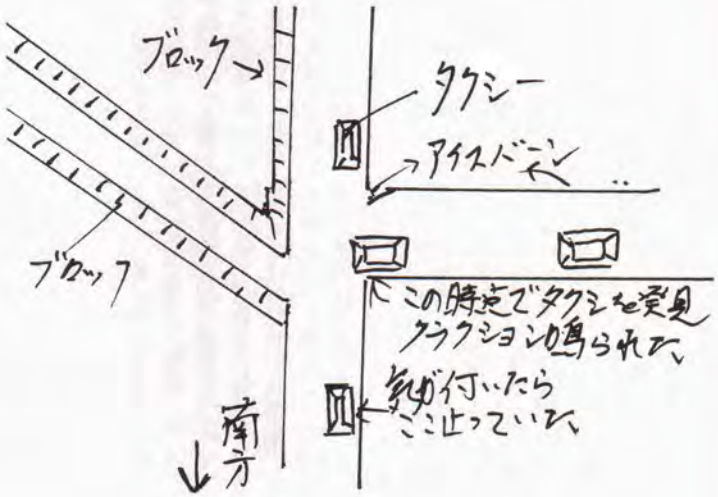


一九九六年三月五日、午後七時半頃

車で走行中、変形十字路の一〇メートルぐらい前で、ライトの反射で道路が光っているのに気づいた。危険なアイスバーンである。ブレーキを強く踏むと、どのように変化するかわからない。自宅は南方なので左へ曲がらなくてはならない。その状態で交差点まで進行した。

そのとき右から来る車を発見。クラクションを鳴らされた。その瞬間に、「まっすぐ行くとブロック塀」と声なのか印象なのかわからない。前述の状態と同じです。

その時点から何の記憶も全くありません。気がついたときには車は交差点をうまく左に曲がり、南方向に向いて、エンジンが今にも止まりそうな状態で停止していました。これも不思議な現象です。♀



UFO雑感

My Miscellaneous Thoughts on UFOs
by Hiroshi Shimizubata

清水畑　博

1．ロズウェル事件

ユーコン誌一三四号の「米政府が隠すUFO問題の驚異的真相」の中で、解剖された小人宇宙人が生体ロボットあるいはクローン人間だというのに驚きました。しかもお腹の中に超小型のUFOが入っていて、母船からの指令をロボットに伝えているというのも物凄い科学力だと思います。

ここでいろいろと考えさせられます。

●人間の精神と肉体は別のものである。自分＝精神？とすれば、精神が宿らなくても肉体は活動できる。

●人間の脳は単なる情報を制御する器官にすぎないのではないか。脳に適当な周波数でパルスを送れば、脳はそれに反応して手足を動かすことができるらしい。

●ハックスレイのSF「すばらしい新世界」を思い出した。その世界では人間の受精卵のDNAをチェックして、生後どのような人間に成長するかを推定し、カースト社会にとって必要ない技術を持つ受精卵、反体制的な思想を持つ受精卵、奇形・精神障害をもつ受精卵をすべて抹消している。その結果、全く犯罪も不正も戦争もない平和な世界が維持されている。

●自分の生体ロボットをたくさん作れば、雑用はまかせることがいっさいできる。戦争中の惑星や、高温で腐敗ガスが充満している惑星の探査に、自分の代わりに派遣できる。

●金星では生体ロボットらしきものが日常の仕事を全部行なっているらしい。それにしても物凄い科学だ。

●UFOと生体ロボットのことを地球上の政府が知ったら、たぶんマル秘にするだろう。どこか近くの惑星に宇宙人がいて、彼らの科学や技術のレベルが違いすぎるのが世界中の人々に知られたら、国家や宗教や戦争経済に深刻な影響を与えるだろうからだ。

国家も敵対する国があればこそ、自国の権益を守るために政府や軍備が必要になる。軍備を維持するためにはいろんな産業が必要になる。しかし全然科学力の違う異星人が近くにいるとなると軍事力は無意味になる。だから地球人が異星人を受け入れるレベルに達するまではマル秘にするしかないだろう。

2．糸で吊ったUFO

模型のUFOを糸で吊って写真を撮ったり、UFO写真に折り目をつけたり、鉛筆でイタズラをして撮影すれば、もっともらしい偽物のUFO写真を作ることができます。画像処理をすれば簡単に偽物だとわかります。コンピューターに多少なりとも知識のある人ならすぐわかります。

問題は、①なぜそんなことをするのか。②元ネタのUFO写真に真偽は全く判断はできないということです。なにか作為的な意図が感じられます。

3．親子兄弟の不思議な関係

自分の体験で恐縮ですが、お知らせします。

●シューベルトの即興曲作品90－2が好きで楽譜を買ったら、ほとんど同時に妹も同じ楽譜を買っていた。なぜかその曲が気になっていたとのことです。

●ラジオが壊れたのでソニーのマレーシア製のラジオを買った。あとで田舎に行ったら、母もまったく同じラジオを同じ頃に買っていた。

4．イメージ法で実現した例

自分の体験で恐縮ですが、お知らせします。

●平成五年春に、都内の新大久保のある専門学校に勤務していたときに「むしろ隣の学校がぴったしなんだがなあ」と思ってイメージを描いていた。九月初めに学校へ行ったら、大至急に隣の関連校に転勤してくれと指示された。行ってみたら、自分の得意な講座を担当させられた。以前にその講座を担当していた講師が急病でやめたので、その代わりを探していたとのことだった。

その後、情報処理試験対策など、コンピューター教育の中心になってしまった。

●私は戦記物が好きである。別に戦争が好きとか思想的なものではありません。極限状態の人間の行動、情報管理、効率の良い組織運用に興味があるからです。「撃沈戦記」の二巻と三巻がほしいなと思っていて、ごぶさたしていた古本屋に入ったところ、目の前にあった。

●この数年間、イメージ法により、コンピューター、無線、簿記、ビル管理等の資格を、半年に一度のペースで取っている。自分の体験だけで判断すると、やはり人間には適正があるのかもしれない。英語などは全然だめです。確か前世はアメリカにいたはずですがねえ。

5．私のUFO目撃体験

秋田県鹿角市がUFOの多発地帯とは知りませんでした。小学校一年のときから約二〇年間住んでいました。UFOらしきものは数回見ていますが断定できません。むしろ大館市で超大型の葉巻型UFOを見ています。それは高校のときで、GAPに入会する前でした。♀

Wonderful Kubota Lecture on Cosmic Philosophy

by Akira Sato

素晴らしい宇宙哲学講義

佐藤　彰

筆者は東京造形大学教授で日本GAP会員。毎年久保田会長を同大学に招待し、正規の授業の一端として講演を依頼している。今年は五月三一日に同大学で一年生三五〇名の学生を対象にUFO問題と宇宙哲学の講演を行なった。このときの学生の感想は佐藤教授の記事のあとに掲載してある。

先日はご多忙の中を東京造形大学にご足労の上、ご講演を頂き、大変有難うございました。私の方も、まるで自分が講演をするように落ち着きがなく、様々な不手際をお許し下さい。

私の研究室は冷房だったのですが、助手がそのやり方を間違えて送風にしてしまいましたので、蒸し暑くなって申し訳なく思っております。

あのとき出席した学生は一年生ばかりで三五〇名。先生にお目にかかれるだけでも真にうらやましいかぎりで、各々がそれぞれ何らかの影響を受けたものと確信しています。

先生が遠い昔に画家をめざした時期があったこと、また音楽家を夢見てクラシックギターを弾いた青春の日々のことも、芸術家を一応目標としている彼らは親近感を覚えたことと思います。

貧乏家屋に住んでいたウォルト・ディズニーが、部屋に出没するネズミからヒントを得てミッキーマウスを創作し、世界の子供達に夢を与え、ディズニーランドまで建設するようになった話。誰にも真似のできない、心に沸き起こるヒラメキを描いたゴッホも、きちんとした基礎的デッサン力や写実力を身につけた上で成り立っていること。人間を生かしている宇宙の意識とマインド（心）を一体化させて、必ず内部からわき起こる印象に心を傾けることが創作活動で最も重要であること。そしてアダムスキー以外にも世界で最先端を行く人は最初は認められないという例等、先生のお話が大変印象に残っています。

私達人間が創造主の子であるとすれば、その使命は宇宙のために役立つ何かの分野で〝創造し続ける〟ことだと思います。私達日本GAP会員は、自分の仕事の上においても会の活動においても、常に創造していかなくてはいけないと思いました。

さて、東京造形大学の講演「久保田八郎 in Zokei」は三回目を終えて、七五〇名が先生のご講演を聞いたことになります。その学生達の一人が一〇人に話し、それを聞いた人が他の一〇人に話せば、七万五千人に伝わります。これを一〇年続ければその話を耳にした人は無数になるでしょう。

それだけではなく、本学の学生達は家、車、家具、家電機器、インテリア、織物、映像、写真、広告、デザイン等に、文明の進んだ異星人達の生活を想像しながら各々の創作活動をしてゆくことができます。先生の講演が学生達の今後の創作活動を刺激し、日本の意識改革の波をつくりだす源を造り出すかもしれないのです。

このような流れをみますと、私が造形大学に勤務したのも、あちこちの精神世界探求の後に久保田先生のご本にめぐりあい、感銘を受けて日本GAPに入会したのも、一つのレールがしかれてあったように思います。

久保田先生は自身の出世をなげうって日本GAPの活動に専念されましたが、もしアダムスキー全集を翻訳して出版されなかったなら、私達は今もなお盲目的に他の惑星に文明は存在しないと思い、魂の発達など気にもかけず、存在しない死後の霊界に恐怖をいだきながら死んでいったことでしょう。

私は今スポーツ整体という天職をみつけて人々に真実を知らせる運動をやれという天命を受け、もし命が尽きることがあっても、私は「火星」に生まれ変わるのだ！などと、楽しい地球人の生活を満喫しています。これも久保田先生のおかげと思っています。

しかるに最近、先生と幹部の方々を、自分達だけを守るエゴの集団として非難する者がいるそうですが、私だったら自分が手塩にかけて造り育てた会は死守するのが当然であり、まして広めている内容がアダムスキーの宇宙哲学なのですから、イエス・キリストの愛の教えと同じくらいに世界中に広めなくてはいけないと思います。

また、多年活動を続けてこられた先生を考えれば、日本GAPの会費やユーコン誌の代金、特別維持会費などは、あまりにも安価で「清貧」という名にふさわしいと思います。年間収入の三パーセントを会費として取るような他の団体などに比べれば全く雲泥の相違です。私は逆にもっと会員が増えて、先生が何のご心配もなく活動ができたらと願っています。

今、新しい幹部の人達も苦労されて変革をしています。私も昨年秋に加藤さん（本部役員幹事）達と飲んだときに、「マンネリ化してはいけない」と

か「もっと宣伝の方法を考えよ」などと言いましたが、今春より東京月例セミナーは（機械振興会館の）六階に移って見晴らしがよくなり、、いつでもUFOが出てきそうな景観なので大変気にいっています。

また遠藤先生がオーラの見方や色当ての超能力開発練習を始められて、本来の会の目標に近づいている感じがします。

またいつも感心しているのですが、久保田先生の質疑応答のときの豊富な知識です。もし一歩ゆずって、先生に対する非難グループがそのような質問類を受けたときに、一体誰がそれに答えられるでしょうか。

あらゆる方面からの質問に即座に答えられる久保田先生の体験と知識に敬服しています。我々は日本GAPに入会したときの初心に返り、あらゆることに感謝し、先生や幹部の方々を応援してゆかなくてはと思っています。

この宇宙で唯一不変なることは「変化すること」だといいます。あらゆる状況に対応し、常なる変化に対処し、我々の求める真実の教えを実践し、広めて、地球人の意識的進歩のために尽くしたいものです。

以下は本年五月三一日に東京造形大学で久保田会長が「UFO問題と宇宙哲学」と題して行なった講演に対する学生の感想の一部。（佐藤彰）

★　久保田先生の楽しいお話を聞くことができて、よかったです。たぶん一生、聞く機会がなかったであろうお話を、こんな形で聞くことができるとは！（これに類する感想が大変多かった）

★なぜ宇宙人さん達は、はるばる地球くんだりまで来て、ちょっと寄ってけばいいのに、ただ姿を見せて飛んでくだけなのですか。人間がきらいなんですか。

★説得力があった。ただし写真はちょっと。金星人がはたして人間と同じ進化をしたのか――。私自身、宇宙人はいると思うが（人間だって宇宙生物だから）地球まで来ているかどうかは分からない。でも可能性はあると思います。

★久保田先生自身はUFOまたは異星人に遭遇したことがおありですか。大変興味深いお話を有難うございました。

★UFOはどうやって消えるのだろう？

★わたしは地球だけに文明が発達し、生物が生息しているとは考えられず、他の惑星にも文明が開かれているのはあたりまえだと思うので、一概に否定できないが、何となく、実物も見たこともないので、うたがわしく思えた。人工的に作ることができそうな円盤や、特撮でとる映像より用意な技術で作れるような写真をみせられても、現実味がないように感じる。地球外にも絶対に生物や文明は存在するとおもうけれど。

★○○は信用できるんですか。

（日本の某研究家に言及した質問）

★来世紀にUFOのことを、どの国がどういうふうに国民に発表するのだろうか。

★UFOはどうやって消えるのだろう。

★北杜夫氏の本で、彼が若い頃アダムスキーの本をよみふけっていたとあるが、アダムスキー氏とは、そんなに有名な人なのですか。

★太陽系内の惑星の人類は同一種なのか。仮に同一種だとして、その起源はどこか。各惑星で独自に進化したとして、すべて同形の人型知性体になるものなのか。異星人の宇宙船に攻撃能力はあるのか。宇宙船が地球機に撃墜されているということは、たいした性能ではないのでは？

★現在UFO論（？）の中で、UFOやその中に乗っていた人（宇宙人？）は、未来の地球人が「昔の地球はどんなだったのかな」と観察しにきているというのがありますが、その可能性はあるのでしょうか。

★どうして異星人、UFOは地球を侵略しようとしないのでしょうか。地球人は、もう一つ地球をつくれないのでしょうか・。

★某大学の教授がTVで（UFOを）否定している理由とその本心は？　米国の極秘情報（UFO関連）を公開したのに、アダムスキー氏や他の人はなぜ粛清されなかったのか。あるいは記憶操作されなかったのか。今のように情報が広がっては、かえってあやしまれるだろうが、まだ知人数人に話した時点では可能だったはず。

★政府はUFO研究の援助をしてないんですか。

★太陽系の惑星全部に宇宙人がいるってことは、宇宙全体にはもっといっぱい、うじゃうじゃ宇宙人がいるってことですか。

★UFOについては信じないわけではないが、アメリカによって、私たちの読む教科書までに偽りの事が述べられているというのは、納得できない話だった。

★ハチソン効果はどの様なものなのですか。方法を知っていれば教えて下さい。

★何故UFOは一般人の前に堂々と現われず、関係者しか知らない様な活動をしているのですか。納得いきません。

★いわゆる宇宙人は、地球に何をしに来ているのでしょうか。

★別の惑星の芸術にはどういうものがあるのか。別の惑星の人類が精神的に発達しているのなら、今の世界の美術史を圧倒するようなものがあるはず。概念（の）ない作品（は）ない。教えてもらいたい。

★アダムスキー型UFOのサイズはどのくらいなんですか。なんで金星人だ

▲東京造形大学で講演中の久保田会長（上）と学生諸君。

とわかったんですか。

★なぜテレビではUFOについて否定するのか。UFOの情報は、これほどうわさになっているのに、なぜ秘密にしようとするのか。アメリカの政府はUFOの情報を持っているはずなのに、なぜ技術の発達が急成長しないのか。

★UFOが飛ぶ仕組み（重力場推進）をくわしく知りたい。

★タイムマシンは出来ますか。他人の心が（テレパシーで）わかるようになったら、この世の中には住めない。

★月はどうなっちゃうのですか。異星人が（月に）本当にいっぱいいるのですか。

★秘密文書はいったいどうやって入手されたのですか。あと、まわりの人がしゃべっていて、うるさかったです。

★まだ地球でも宇宙船を作れないのでしょうか。

★UFOは謎ですね。信じることには何らかの利害があるのでしょう。

★私はUFOを信じます。私の全部をあげます（退学にならないのなら）。でもこれから先（日本が）英語の時代になったら困る。（これに類する意見も多かった。佐藤）

★ふだんでは出来ない体験が出来ました。

★久保田さんの話を聞いていると本当に思えてくるからふしぎだ。

★宇宙人はなぜ道路が必要なのですか（月の写真には写っていましたが）

★私の知っている人が「小さいころからUFOを見ている」と言っていたので、TVに出ている人とかが見たというよりも、その人が言うならUFOはいるかもと思い始めていた矢先に、佐藤先生の（久保田による）UFO講義があったので、とりあえず二〇二〇年頃を楽しみにしておきます。私はたまに期待するのですが、UFO見たことないです。

★スライドは、すごかったです。

★久保田さんは好きです。

（女子学生の文字?）

★久保田先生のお話によって、私もUFOの存在を信じられるようになりました。ありがとうございます。

★ほんとうのことなら、すごいことだと思う。

★興味があったので、おもしろかった。スライドも普段みたことのない写真だったので良かった。

★ヤキソバのCMそのもののようなUFOが写っていてびっくりした。前はちっとも信じていなかったけれど、ちょっとホントっぽくて。もしかすると本当にいるかも。

★メンタルテレパシーの事だけは信じている。

★毎日ずっと空を見てるとUFOはみえますか。

★タイムマシンはできますか。

★UFOは本当にいるんだと思いはじめました。

★いろいろ話をきいて、うそとは思えないけれど、やっぱり自分の目でUFOを見たりしないと一〇〇パーセント信じることはできない。

★なかなかおもしろかった。もしかしたら、この先UFOや異星人があたりまえのようになってくるのかもしれない。

★本当かどうかは自分で見たことがないかぎり分かりませんが、貴重な写真が見れてよかったです。

★あそこまでハッキリ写っていると、本当なのか?と思ってしまったが、けっこう信じている私には、良い経験になったと思う。本当にいるのならば、ひと目見てみたいです。

★写真がすごくはっきり写っていてビックリした。

★面白かったです。UFOは何故多くの人の前に現れないのですか。

★さすがに四〇年くらい研究してきただけあって、少しは信じられるかなと思いました。

★宇宙人のことをもっと知りたいと思いました。

★宇宙人は友好的なのか。興味深いお話でした。

★今回の未知の領域に関する話は珍しくて面白かったです。

★秘密文書をどうやって手に入れたのか。何故手に入ったのか。

★スライド上映がとってもよかった。

★説得力のある講演会でした。

★日本にもUFOの記録がきちんとあるとは知らなかった。ちゃんとあるなら公表してほしい。

★またやって。

★不思議な気分だった。足の裏はアメーバみたいだと思った。

★UFOはどうやって消えるのだろう。

★少しUFOを信じてきた。面白かった。本買おーと。

★広い宇宙に人間以外の生物がいてもおかしいことはないと思いました。宇宙の大きさを考えると、人間一人の大きさが不思議に思えました。

★お話を聞いてUFOの知識は深まったが、自分でUFOを見たことがないので、本当に存在しているかどうかは、まだ半信半疑です。

★よかったと思う。

★この素晴らしいUFOの講義をきいてUFOの存在を信じた。

★あと何十年かして今の常識が違うものになったら、その時、本当に信じることが出来る様になるかもしれない。今は見たことのないものを何が本物であるかどうかを言うことはできんです。話はなかなか面白かったです。眠くならなかったし。

★実感はわかないが、先生がうそをついているとも思えない。UFOをちょっと見たい。

★いろいろな事を知っていらっしゃる方で感動しました。

★いい人だなあ。

★近頃、KGBからUFOの写真とビデオが流出したが、なぜ今頃流出したのか。

★おもしろかった。

★私はUFOの話好きです。軍事や国家にかかわるトップシークレットの部分の話にとても興味があります。異星人は存在してます。なのに詳しい情報が流れてこないのでもっと知りたいです。異星人の皮ふとかどうなっているんでしょう。やっぱりタンパク質と水と脂なんですか。それともプルトニウムとかでできているんですか。聞きたいことがいっぱいあります。

★テレパシーができたらおもしろいだろうと思った。

講演者（久保田）付記

この講演は入学してまもない一年生の男女学生に対して行なわれた。以上の各感想は非常に興味深く、日本の学生のUFO問題に関する認識度の実態調査にもなった。深謝したい。

一九七〇年代の第一次UFOブームの頃に多数の大学の文化祭で講演を行なったが、当時と比較すると、UFO問題に対する学生の態度に格段の差があるように思う。太陽系の別な惑星の文明存在説についても、あたまから否定するような態度はみられない。宇宙的な意識が発達したのであろうか。

今後も毎年同大学で講演を行なうので大いに頑張りたい。♀

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(3)

How to Unite Man's Mind with Cosmic Consciousness
by George Adamski／Translated by Hachiro Kubota
© From Alice Pomeroy's "For An Example"

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳　〈アダムスキー講演集　連載15〉

一九六〇年代にアダムスキーがニューヨークビンガムトン市の小集会で行なった前号掲載の質疑応答の続き。人間の宇宙的な生き方と至福の道に至る方法を述べた最高の宇宙の真理が展開。この連載記事はアダムスキーに師事したアリス・ポマロイ女史が膨大な録音テープから原稿を起こしたもので、その英文原稿すべてが訳者に贈られて翻訳掲載権が与えられた。（文中の傍点の部分はポマロイ女史の原文の指定に準拠した）

▲ジョージ・アダムスキー　パロマー山にて。背後には彼の15インチ反射望遠を設置した白いドームが見える。

地球の観測装置は不完全

問　あなたは金星にはどのくらい長くいたのですか？

ア　五時間ほどです。

問　この国の科学者たちは、金星の大気のもとでは人間は生きられないと言っていますが？

ア　あなたがその情報をどこから仕入れたのかは知りませんが、あなたにそう言った人々は、実際に金星に行ったことが一度もないはずです。なのに、なぜそんなことが分かるんです？

問　それを知るための何らかの方法があるのではないですか？

ア　いや、ありません。たとえば、パロマー山に二〇〇インチ望遠鏡が設置されたとき、それは一〇〇インチ望遠鏡を過去のものとしてしまいました。一〇〇インチ望遠鏡は、それまで宇宙に関する特定の有益な情報を提供してくれていました。しかし二〇〇インチ望遠鏡は、その一〇〇インチ望遠鏡を、分解能が九億光年分も劣るものとして、ほとんど無用なものとしてしまいました。一光年とは、一秒間に三〇万キロも進む光が一年かかって進行する距離です。そしてたとえ二〇〇インチ望遠鏡を用いたとしても、金星表面の様子を正しく見ることは到底不可能なことなのです。

結局、我々はまだ、そこの真実を知るためのいかなる装置も持っていないのです。地球にある装置では、他のいろんな情報は手にできても、金星が居住可能か否かを証明することは全くもって不可能なわけです。

我々はまたスペクトル分析も利用していますが、それも、この地球上にあるものの分析には有効かもしれませんが、宇宙のかなたの真実を突き止めるためには、ほとんど役に立ちません。池の底に沈んでいるものをその表面から撮影しても、間にある水に邪魔をされて、鮮明な写真を撮ることは決してできませんよね？　ぶ厚い大気の層を通して撮影するのも、それと同じこと

なんです。ましてや別の惑星を撮影するとなると、その惑星の大気層による妨害も受けることになるわけです。無理です。我々の装置で他の惑星の表面の様子を正確に知ることは、少なくとも現時点では不可能なことです。

以前にも、このようなミーティングの中で、ある紳士から同じ質問をされたことがあります。彼は、カリフォルニア工科大学のある研究者から金星の大気内で人間は生きられないと聞かされていました。そこで私はその質問者に、その研究者のところに行って、実際に金星に行ってきたのかと尋ねてみるように言いました。その紳士が尋ねたら研究者の答えはノーでした。そこで紳士は、「じゃあ、どうやってそれを知ったんだい？」と尋ねました。

分かりますね？　我々の装置類は完全ではありません。少なくとも今の時点ではね。いずれは完璧なものができるかもしれませんが、まだしばらくは無理でしょう。

古い教科書による教育

問　でも、大学その他ではこう教えていますがね。

ア　そんなことはわかっています！でも、我々の教科書は三五年前あるいはそれ以前から全く変わっていません。そして、まだしばらくは変わらないでしょう。彼らが「レンジャーに搭載した六台のカメラはうまく働かなかった」と言わざるをえなかったのは、そのためなんです。もし彼らがレンジャーが撮影した写真を公表したとしたら、この世界のあらゆる学校で大騒ぎが持ち上がっていたでしょう。学生たちは、「これまで聞かされてきたことなど、もう聞きたくない。新しい教科書がほしい」と騒ぎ立てたことでしょう。真実が知らされるまでには、まだ時間がかかりそうです。注意して見守っていましょう。彼らが新しい教科書を作るときが、おそらくあらゆる情報が公表されるときです。そのときまでは、真実は決して公表されないでしょう。もう少し時間がかかりそうです。

問　真実が明らかになれば、今の経済機構が崩壊してしまうのではありませんか？

ア　そうですね。ただ経済機構に及ぶ影響は教育システムへの影響ほどには大きくないでしょう。学生たちは、今でも自分たちが教えられていることの内容に大きな不満を持っています。一般に社会的大変革が発生するときには、学生たちがそれをスタートさせます。彼らは今の教科書の多くが、すでに時代遅れになっていると考えています。そしてそれが彼らの勉学意欲の欠如の効果的な言訳の一つにもなっているわけです。

問　お尋ねします。もし我々があなたの奥さんのように死んだ後で金星に転生したとしたら、そのとき我々は、そこでもまだこのエゴとの闘いを続けねばならないんでしょうか？

ア　今の想念状態のまま亡くなって、彼女のように金星に行ったとしても、あなたはおそらくエゴとの闘いにそれほど苦労することはないと思います。ちなみに彼女はそれと闘いませんでした。彼女は言わば精神的に自由でした。彼女は金星に生まれ変わることに、何の不安も感じていませんでした。彼女は自分の習慣にコントロールされるということがほとんどない、とても自由な人間でした。言うなれば自由な魂でした。そして、向こうに行って、とても自然に新しいスタートを切りました。

進歩を妨げる古い伝統と因習

そもそも、地球の子供たちにしても、正しい進歩の過程を自然に辿りうる状態で生まれてくるんです。でも我々地球人の大人たちがそれを許さないんです。まず第一に、我々は古い骨にしゃぶりつき続けています。もはやそれには肉が全くついていないというのにです。我々はそれを伝統とか風習とか呼んでいます。そしてそれに、もう何千年にも渡ってしがみつき続けているんです。我々はいまだにそれを手放そうとしていません。それは、かつては我々のためにとても良い働きをしました。しかし、今ではもう何の役にも立っていません。今では我々を混乱させ、我々の進歩を妨害することしかしていないんです。

この世界の子供たちは、そのタイプのいわば海の中に、そういった雰囲気の中に生まれてくるわけです。そしてさらに、その中に、両親をはじめ、祖父母、叔父、叔母、兄、姉といった人々が彼らのアイデアを放り込みます。その結果、子供たちは持って生まれた自然な才能あるいは自然な性質を表現する機会を、あっというまに奪われてしまうことになるわけです。

赤ん坊の純粋さを観察

他の進歩した惑星の子供たちは、その機会を充分に与えられています。向こうの人々は、そのことにとても気を使っているんです。彼らは生まれてきた子供をじっくりと観察します。たとえば、子供たちは、ベイビーベッドの中で微笑んでいるとき、あるいは、何かを言いたそうな表情をしているときには実際に話しかけているんです。我々の心にではなく別の何かに向かってです。彼らの意識の年齢は創造主のそれと一緒です。そのとき彼らは、同じ意識を持った我々の細胞に話しかけているんです。

生まれたばかりの子供たちは、いかなる恐怖も知りません。つまり完璧に純粋な状態にあるわけです。他の進歩

した惑星の人々は子供たちをそのような観点から観察しているんです。赤ん坊の心の状態は、様々な印象が刻み込まれる前の真っ白な状態にあります。そして向こうの大人たちはその心が語ることにじっくりと耳を傾けるんです。その結果、彼らはときおり子供たちがいわゆるテレパシー、すなわち印象言語を用いて伝えようとしている価値ある情報に気づきます。そして彼らはそれを有効に利用します。

赤ん坊が進歩に貢献

信じがたいことかもしれませんが、そのようにして、とても多くの赤ん坊たちが金星あるいはその他の進んだ惑星の進歩に貢献しているんです。

金星においても、人々の心は我々の心ほどではありませんが、幾分は習慣的になってしまう傾向にあります。彼らもまた、特定の習慣的思考にしがみついて、新しいものの受け入れを拒否してしまう傾向が若干ではありますが、あるんです。そしてそこに何の制限も受けていない心を持った赤ん坊が出て来るわけです。赤ん坊のその心はあらゆる印象を受け入れます。そしてそれをテレパシーを通じて、大人たちに伝えます。続いて大人たちは、赤ん坊からその情報を、彼らの惑星の進歩のために応用するというわけです。

問 私の孫息子は、幼い頃に、彼だけにしか見えない遊び友達を持っていました。女の子の友達のようでしたが、私たちには全く見えませんでした。彼はその子に名前をつけ、その子のことをあれこれと私たちに語ったものです。

私たちは最初それを聞いても別に驚きませんでした。というのも娘もまた子供の頃に彼女にしか見えない遊び友達を持っていたからです。

でも続いて二つのことが起こりました。ある日、彼の寝室に入っていった私を見て、彼はこんなことを言ったのです。「おばあちゃん、僕の本を読んでくれているこの女の人のこと、どう思う？」

また、別のある日、彼は私の部屋に走り込んできて、「おばあちゃん、ビー叔母さんの部屋に怖い男の人がいるんだ！」と訴えました。もちろん、どちらの場合にも、そこには誰もいませんでした。

ア なるほど。でも、それはこういうことなんです。これはとても重要なことです。というのも、こうした現象は誤って理解されてしまうことがとても多いからです。

万人は自分自身

ある女性がいました。彼女はとても理知的な女性で、ありとあらゆることを学んでいましたが、そのうちの何一つとして活用していませんでした。彼女は大金を投じて自身の大きな書斎を、ありとあらゆる種類の素晴らしい本で満たしていました。そしてそれらのすべてを読みました。しかしそれだけでした。

さて、あるとき私はこの問題に関して彼女から質問を受けました。「一部の人々が、他の人々には見えないものを見るのはなぜなのだろう。彼らが見る様々な人物は、そのとき実際にそこに存在しているのだろうか。そのときそこで、実際には何が起こっているのだろう」といった内容の質問でした。

そこで私は、彼女をテストするために、彼女にそれを自分の力で理解させようとして、ある単純な公式を教えました。彼女は読書を通じて充分な知識を持っていました。そしてそのために、最終的にはその公式を見事に利用することができました。

もし私がその公式を何千人もの人々に教えたとしても、それを利用して確かな結果を入手できる人は、ほとんどいないでしょう。でも彼女はそれを利用しました。それを利用して探究を続けました。そして三カ月後にこの問題に関する最終的な理解を得ることができたのです。

自分の過去世の姿を透視

彼女は、ある夜、（過去世透視によって）一五〇〇人もの異なった人々に会いました。あらゆる体格の、あらゆる年齢層の人々でした。彼らは、あらゆる種類の人格と、あらゆる種類の外見を持っていました。老人もいれば老婆もおり、成人男性、成人女性、さらには男の子も女の子もいました。

彼女の心は、彼らを見て最初は世界中に住む彼女の親類縁者たちだと考えました。しかし、実際には彼らのすべてが過去世の彼女自身だったんです。彼女は彼らの一人一人と話をしました。そして彼らが一五〇〇の異なった肉体を通じて表現されている彼女自身に他ならないことに気づきました。彼らの肉体は、彼女の自己が進歩を果たすために、過去に次々と身につけては脱ぎ捨ててきたものだったんです。

子供たちは、それを見ているんです。たとえば今ここに生まれた赤ん坊たちが二年後に初めて遊び友達を手にしたとしましょう。彼らにしか見えない友達をです。その場合、十中八九、その友達は、彼ら自身の直前の生涯における姿です。

誰も自分の悪い面を見たくない

そして、ある持続的なパターンが存在しています。たとえば、ほとんどの人々は自分にしか見えない誰かと会い、その人物と話をして、その人物の外見、話しぶり、性格、あるいは行動などが気に入らなかったとしたら、速やかに、

「この人物は自分の知らないどこかの誰かだ」という結論に達してしまう傾向にあります。彼らはそもそも自分自身のかなりの部分が気にいっていません。さらに、過去世での自分自身となると、なおさら受け入れを拒否する傾向にあります。現在の進歩した自分の状態と比較して眺めるからそうなるのです。我々は、多かれ少なかれ、これまでいくつもの生涯を経て着実な進歩を遂げてきました。そして、今よりも未熟な過去世の自分自身を見ることを無意識のうちに嫌う傾向にあるんです。

他人の過去世を透視できる人々が、皆さんの過去世を見て、良いことしか言わない傾向にあるのはそのためです。皆さんは、過去世でひどく悪い男であったり、ひどく悪い女だったことがあるかもしれません。でも透視能力者は、ほとんどの場合、そのことを皆さんには決して言いません。皆さんがそれを聞きたくないこと、そして、皆さんが聞きたいのは自分の良い面のみであることを、よく知っているからです。

過去世を思い出す子供たち

以前に私は、この件に関して、子供たちと話したことがありますが、彼らのほとんどは、私とこの問題を話し合っているうちに、やがて、「そうだ。そうなんだ。分かったよ。あれは僕だったんだ。つい最近の僕だったんだ」といったようなことを言ってきたものです。我々は、子供たちがそのことに気づけるよう手助けしてあげてしかるべきです。もし皆さんが、彼らの注意をその点に向けることができたなら、彼らが正しい理解を手にできるよう手助けすることができたなら、彼らは皆さんに言うでしょう。「その通りだ。私はあの肉体を捨てて、今はこの肉体の中にいるんだ！」

もし皆さんが彼らの話をバカにしたり、そんなことを言う彼らを叱りつけたりしなければ、そして皆さんが彼らを信頼しているということを彼らに明確に知らしめたならば、彼らの多くは極めて自然に正しい理解を得ることになるでしょう。

問 彼らはその能力をどのくらい長く持ち続けるのでしょうか？

ア 私の知り合いの中には、その過去世透視能力を延々と保ち続け、しかもそれを進歩させながら私と同じような年齢になってもまだ持っているという人々も何人かいます。

ただ一般的には子供時代の間に徐々に消滅に向かうことが多いようです。もし皆さんがこの能力を大人になっても保ち続けている人々に会ったとしたら、本人たちは、この能力を自分たちから奪い取ろうとする人間と接触する機会が極めて少なかった人々だということが言えるでしょう。我々の誰もがこの能力を充分に備えた状態で生まれています。でも、両親や社会システムそのものが、それを我々から奪い取ってしまうんです。

子供をダメにする親

たとえばここにある父親がいて、彼は医師だったとしましょう。彼に息子が生まれます。その息子は少し成長したとき芸術家になりたいと言います。彼は自分には芸術的才能があるという強いフィーリングを持っているのです。

でも父親はノーと言います。「お前は私の後を継いで医者にならなくてはならない」

よくあることですね？　そのようにして父親は息子にそれを強要します。その息子は、やがて、かなり優れた医師になるかもしれません。そうなるための妥当な教育を受けたからです。しかし、もし彼が芸術の道を歩んでいたならば、とてつもなく素晴らしい芸術家になっていたかもしれません。このようにして、我々は先程の過去世透視能力も含めた子供たちの様々な能力を殺してしまう傾向にあるわけです。

真のリラックスの意味

問 泥のボールの話に戻ってもよろしいでしょうか？

問 どうやらあの泥のボールがとても気に入ったようですね。ええ、いいですよ。あれは良い話でしたでしょう？（これは本誌一三三号に掲載）

問 ええ。あの話に関連してお尋ねしたいことがあるんです。イエスは「神の国に入るよう努めなさい」と言いました。あなたは先程、海に辿り着いた泥のボールと、途中で止まってしまった泥のボールの違いは、前者がそのための努力を惜しまなかった点にあるとおっしゃいました。

ア ええ、その通りです。

問 続いてあなたは、忍耐強くあらねばならない、リラックスすることだ、ともおっしゃいました。私には努力をすることとリラックスすることがうまく結びつかないんですが、そのあたりをご説明願えませんでしょうか？

ア 私の言う努力とは、試みること、異なった何かをすること、新しい何かをすること、持続的に何かを学ぼうとすることであるとともに、それを自分に強制しないことなんです。あなたはそれを気楽にリラックスして行なう必要があるんです。過度の集中は決して物事を進展させません。それは逆にあなたの前進を妨げてしまいます。なぜならば自然界に存在するあらゆるものの本質は柔軟性に満ちているからです。あなたは何かに集中することで自分自身を緊張させることになるんです。

たとえば、あなたが遠くの的を射抜こうとして銃を手に取ったとしましょう。そこで、あなたが射撃の達人であ

るならば、銃を手に持ち、それを一度上に上げ、続いて静かに下ろしながら、その流れの中でここぞというところで発射するという手順を踏むでしょう。そのようにしてあなたは見事に的を射抜きます。

でも、あなたが的に当てたいという強い願望とともに的に照準を合わせることに集中したならば、手が微妙に震えていつになっても照準が合わず、結局は的を外すことになってしまうのです。

精神の集中はよくない

あなたは、自分が行なうべきことを明確に知っていなくてはなりません。しかしそれに集中する必要は全くないんです。自分が目指すもののイメージを心に完璧に描き上げたら、あとはそれを速やかに解き放つことです。それに集中する必要はありません。意識の集中あるいは集中的努力は疲労を加速します。それはあなたが行なうべきことを行なう前に、そのために必要な自分のエネルギーの多くを消耗させてしまいます。一度明確な目標を設定し、それを心に描き上げたら、あとはリラックスして、そのために必要な努力を自然な流れの中で行ない続けることです。

プラス思考のみに徹しないこと

それと、プラス思考というものがあります。今では、多くの人々がそのアイデアを受け入れて、実践しようとしています。しかし、あれも間違いです。もし皆さんが、プラス思考のみに徹し続けたとしたら、マイナス思考に耽り続けている人と同様に悪い結果を次々と生み出すことになるでしょう。そのとき皆さんは、宇宙の法則の片側にしか注意を払っていないからです。それでは、良い結果は決して得られません。それはまるで、プラスとマイナスの要素からなる電気の一方の要素のみを利用して電燈をつけようとするようなものです。あるいは、電燈に一本の電線のみを取りつけて、電気を流すようなものです。それだとひどいショックは起こるかもしれませんが、素晴らしい結果を決して得ることはできません。

二つのパワーを用いること

皆さんが、良い結果を望むのならば、その二つのパワーを統合しなくてはなりません。いかなる男性も女性も、自分一人では絶対に子供を作ることができません。両者のコンビネーションが不可欠なわけです。男性原理と女性原理、つまりプラスの要素とマイナスの要素が統合されてはじめて良い結果が出現するんです。

自然界に存在するあらゆるものがこの原理に従っています。ですから、皆さんがプラス思考あるいはマイナス思考のどちらかしか用いなかったとしたら、それによって皆さんの調子は激しく狂ってしまうことになります。皆さんはその二つを統合しなくてはなりません。それらのバランスを取らなくてはならないんです。皆さんが良い結果を手にするためには、そのバランスが必要なんです。

集中しすぎないことです。そして二つの原理をバランス良く統合することです。自分の意図を明確にしたら、それを速やかに放出することです。リラックスして、穏やかに努力を続けることです。あなたが自然の法則の一方の原理しか利用しなかったとしたら、あなたの人生ははなはだしくバランスに欠けたものとなるでしょう。

それら二つの原理間にどんな違いがあるというのですか？

シーソーのたとえ

シーソーを思い浮かべてみて下さい。それがどんなものであるかは、誰もが知っています。そのシーソーを前にして、我々が、片側の板は良い板で、もう一方は悪い板だと決めたとしましょう。

まず、その良い板の端に乗ったとしましょう。そのとたん、我々はその板ともども地面に激突し、激しいショックを受けることになります。悪い板に乗ったときにも結果は同じです。

我々が賢ければ、そして、シーソーの板のどこかに乗らねばならないとしたら、我々は板全体の中央部に乗るはずです。そうすれば、板全体のバランスが取れて、我々の安全が保たれることになるわけです。

問 アダムスキーさん、私はそれと同じことを、空軍にいた息子が無感円錐域に到達するための訓練の話をしてくれたときに知りました。彼らが無感円錐域に到達するには、ある光線上を正確に飛行しなくてはなりませんでした。飛行機の軌道がその光線の左右どちら側にずれたときにも、ブーンいう警告音がなって、彼らはそのつど軌道修正を求められました。私はその話を聞いたとき、これは人間の意識にもそのまま当てはまる教訓だと感じたものです。

バランスを保つとよい

ア その通りだと思います。人々は、いつもバランスをくずしているんです。人々は極端主義者なんです。食事に関してもその他のあらゆることに関してもです。イエスは何をするにも節度を守るように教えました。節度とはバランスです。無抵抗の態度も皆さんにとって決して役立ちません。なぜなら、

●米サウスカロライナ州チャールストンで、1980年4月14日午後5時50分にウィリアム・ハーマンが撮影したUFO。©日本GAP

それは弱い態度であるからです。がむしゃらにやろうとする態度ではなく、穏やかな努力、言い換えれば「運動の法則」こそが、唯一あなたを目的地に運んで行くものです。

皆さんがあまりにも積極的になりすぎると、そのとき皆さんは極端な態度をとることになります。しかし、節度を保っているならば、皆さんは常に二つの原理に等しく注意を払いながらバランスの取れた活動を続けられます。それは皆さんを必ず良い結果へと導くはずです。

私は極端に走らなかった

人々はよく、私にこんなことを言います。「あなたは、どんなことでも知っているようだ。あなたはその知識をどこで仕入れたんですか？　これまであなたはどんな種類の人生を生きてきたんですか？」

私は、皆さんと全く同じようにして生きてきました。私は聖者ではありません。そしてもちろん悪魔でもありません。私は単に私自身であるだけです。私は自分自身のすべてを受け入れてきました。すべてをです。しかし、人々の多くはそうしていません。

ただ、私はいかなることに関しても極端に走ったことはありません。私は自分の人生からあらゆる極端と過激を排除してきました。

そして、皆さんもまた、今そうやって生きているということは、基本的にはバランスを保ち続けているということが言えます。皆さんは基本的には常にニュートラルな状態にあるんです。たとえば、そうだ、あのことを話しましょう。実は機械装置類に関しても全く同じことが言えるんです。

人工衛星の例

アメリカが打ち上げに成功した初期の人工衛星はアリゾナ州フェニックスのエア・リサーチ社で作られました。それは表面に金メッキが施された直径二一インチの球体でした。（訳注＝一九五九年九月に打ち上げられたバンガード3号のことか？）アメリカはそれを宇宙空間に打ち上げたわけですが、その球体の表面はマイナスの電磁場で覆われねばなりませんでした。なぜならば宇宙空間に浮遊する粒子は、すべてがマイナスに帯電しているからです。マイナスはマイナスを跳ね退けます。ご婦人方が、ご婦人方同士でうまくゆかないのは、そのためです（笑い）。彼女たちは互いに跳ね退け合うようにできているんです。男性同士の場合にも同じことが言えます。

まあ、それはともかくとして、研究者たちはその球体の内部に様々な装置を設置しました。そのための費用は総額五〇万ドルにも及んだようです。し

かし、テストの結果、それらの装置がうまく作動しないことが判明しました。何度やってもだめでした。装置類の一部が焼け焦げてしまったようです。彼らはその原因が分からず、途方に暮れました。実は、彼らは自然の法則の片側だけを機能させようとしていたんです。互いに相反する二つの原理の片方のみをです。

困り果てた彼らは、私のところにやって来て助言を求めました。そこで私は、「その構造を教えてくれないか」と言いました。「いや、それはできない。これは国家最高機密なんだ」というのが彼らの答えでした。

私は呆れて言いました。

「話したくないんだったら、それもいいだろう。ただしその構造を君たちが教えてくれないかぎり、私は何のアドバイスもできないということになるよ」

そんなやり取りのあと、彼らは渋々人工衛星の構造を説明しました。私はすぐにその欠陥に気づいて、こう言いました。

「なるほど、君たちは、この球体の外側にマイナスの場を作り出す仕組みをこしらえたわけだ。ここにマイナスの場が形成されるということは、それと同時にプラスの場がどこかに出現しなくてはならないことになる。この場合は、それが装置類の詰まった内側の空間に出現することになるね。でも君たちはそこをニュートラルの状態に保ちたがっている。なぜならば装置類がプラスに帯電した状態では、うまく作動しないからね。焼け焦げてしまうことにもなりかねない」

彼らは「ああ、その通りだ」と言い、「で、どうしたらこの問題を解決できると思いますか？」と尋ねました。

そこで私は言いました。

「もう一つの球体を作るんだね。そしてそれをこの球体の内側に入れて、二つの球体を絶縁するんだ。そうすれば、外側にマイナスの場が発生したとき、プラスの場は、最初の球体と二つ目の球体の間の隙間内に出現することになる。その結果、装置類のある中央部はニュートラルの状態に保たれる、というわけさ」

彼らはその通りにして、期待通りの結果を得ました。宇宙空間に打ち上げられた装置類は、見事にその役割を果たすことになりました。

我々も、同じことをしています。我々は両極端のどちらかに走っては悪い結果を得ています。我々は二つの原理をバランス良く統合しなくてはなりません。一度それを行なえば、もはや、大きな努力は不要になります。

二つの原理のバランスの取れた統合により、結果が自然に現われてくることになるのです。それは、明らかに良い結果です。バランス、つまり節度こそが鍵なんです。しかし我々はその節度の法則の活用法を学ばねばなりません。

節度を守るということは、これまでの生き方や楽しみを放棄するということでは決してありません。皆さんは、もし望むならば菜食主義を続けても一向に差支えありませんし、これまで喜びや幸せを見いだしてきたあらゆる活動を、これまで通りに続けていいんです。皆さんは、これまでの生き方を続けながら、いくらでも進歩することができるんです。では、どうしたらそうすることができるのでしょうか？

世界は創造主のあらわれ

この世界のすべてが、創造主によって作られたということを忘れないことです。この世界は創造主の想念が具現化したものなんです。その想念は創造主自身の意識の中からやって来ました。ということは、この世界は創造主自身と同等に神聖で美しく完璧なものであるはずです。その中で我々が醜いものを作り出しているとしたら、それは我々がこの事実を知らないから、この種の正しい認識とともに生きていないからに他なりません。

天国に住む人間たち

我々は今、実のところ、まさに天国に住んでいるんです。しかし我々はその事実を知っていません。それが最大の問題なんです。我々がなすべきことはただ、「天国が要求するものは極めて普通のものである」ということを知ることのみです。言いかえるなら、皆んは極端に走ることさえしなければ、まての生き方をやめる必要など全くないということです。

たとえば、そこのあなたに子供がいるとしましょう。あなたは自分の子供の幸せを願っています。あなたは、その子の肉体が危険にさらされそうになったときや、その子が誰かを、あるいは自分自身を傷つけそうになったときには、その子に対して強い警告を発するでしょう。でもそれだけです。あなたはそれ以外のときには息子あるいは娘に、度を越さない範囲内で、可能なかぎり楽しい幸せな時間をすごさせたいと考えるはずです。我々の創造主も、我々にそれと同じことをさせたがっているとは思いませんか？

創造主は我々を鬱々とした死人のような人生を生きさせるためにここに送ったのでは決してありません。だというのに、この世界はそんな生き方をしている人々で溢れているんです。

問 イエスは、「あなたがたに神の国を与えることは、父の大いなる喜びである」と語っていますが、我々がそれを受けとるために最も大切なことは、互いに調和すること、裁かないこと、そしてバランスを取る（45頁へ続く）

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★在庫は101号105号以降全部（100号以前と102，103，104号品切れ絶版）。バックナンバーのみすべて頒価を1冊¥700に値下げ断行。代金後払い可。ハガキに号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛気軽にご注文下さい。バックナンバーの送料は本会でサービス。

No.134　1996年(平成8年)7月25日発行　¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異的真相――久保田八郎
真実であったアダムスキーの体験――G・クレイトン
秋田で巨大円盤を目撃！――加藤純一
東京タワー上空の大母船――遠藤昭則
ロズウェル事件の真相はこれだ
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問―遠藤昭則
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法―G・アダムスキー

No.133　1996年(平成8年)4月25日発行　¥700

月は異星人の基地だった――久保田八郎
私の宇宙哲学実践とUFO目撃――加藤純一
懐疑論者から支持者に転向――J・ローリーノ
アダムスキー哲学と波動感知法――林　国宜
創造のための宇宙哲学――佐藤　彰
宇宙の夢とUFO目撃――吉川美香
カルナの意味――林寺正俊
東京大地震は近未来に発生しない――秋山眞人
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法―G・アダムスキー

No.132　1996年(平成8年)1月25日発行　¥700

別な惑星の文明と創造性――秋山眞人
イエスの時代を透視する――遠藤昭則
奇跡を起こすイメージ療法――原　永倉
宇宙船の形態に関する一考察――遠藤昭則
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学―アリス・ポマロイ
好評、名古屋市の講演
東京造形大学で講演

No.131　1995年(平成7年)10月25日発行　¥700

アダムスキー問題と日本GAP――久保田八郎
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現！―加藤淳一
私もワシントン市でUFOを見た！――清水　正
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか―植木淳一
アダムスキー大会を思う―岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
熱烈な呼びかけに応えたUFO――石井一江
私のUFO目撃と宇宙的な生き方――忍田裕昭
宇宙時代の夜明け――村上博一
人間の実体・意識・テレパシー原理――G・アダムスキー

No.130　1995年(平成7年)7月25日発行　¥700

M氏の「UFOと異星人」体験――久保田八郎
アダムスキー型UFOの飛行原理を解明――遠藤昭則
超能力者ディナの驚異的パワー――久保田八郎
異星人女性との出会い――佐々木八郎
スペースピープルを見かける私――原垣内良子
透視・臨死体験・不思議な女性――千葉福造
白山のUFO――沼倉孝彦
父と従兄が“UFO”目撃――高橋克彦
人間の実体・意識・テレパシー原理――G・アダムスキー

No.129　1995年(平成7年)4月25日発行　¥700

地獄の大地震からの奇跡の脱出――平塚和義
大地震を前夜予感した私――西村悠子
偉大な教訓となった大地震――田辺健司
ロスで見かけた異星人女性――加藤純一
アダムスキーの大地を訪れて――黎明会有志
巨大母船、安比高原に出現！――秋山和広
サイコメトリーによる書物の質の感知法――林　国宜
UFOの速度・肉体と魂・
真の科学・長寿法――G・アダムスキー

No.128　1995年(平成7年)1月25日発行　¥700

アダムスキー・永遠の真実と栄光――ダニエル・ロス
わが母の驚異のUFO目撃――ミシェル・ジルガー
総会の日にUFO出現
那須高原で巨大母船出現！――堀江健一
ダニエル・ロス氏宅訪問記――久保田八郎
あなたもオーラが見える――遠藤昭則
予知能力を持つ土星人女性の援助――G・アダムスキー

No.127　平成6年10月25日発行　¥700

UFO出現の国ーメキシコ――久保田八郎
ロズウェル事件とMJ12文書――坂本貢一
UFO目撃と不思議体験の旅――4名執筆
私もアダムスキー型円盤を見た！――田口邦雄
UFOとオーラと想念――山崎和子
奇跡的に難病を治す方法――久保田八郎
異星人とUFOの真相(2)――G・アダムスキー

No.126　平成6年7月25日発行　¥700

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下――久保田八郎
UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)――溜池みゆき
私も母船を見た！――津田篤孝
ムー大陸から見た原日本人――澤入達男
昔のUFO目撃の思い出――橋本恵一
異星人とUFOの真相(1)――G・アダムスキー

No.125　平成6年4月25日発行　¥700

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ――久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た――大野義和
UFOを頻繁に見る私のカルマ――溜池みゆき
不思議な予知透視――米川宣雄
突然出現した不思議な人間――千葉敏江
生命と物質と超能力――伊藤睦史
異星人はなぜ地球へ来るのか――G・アダムスキー

No.124　平成6年1月25日発行　¥700

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法――久保田八郎
今世紀末、大変動発生なし！――秋山眞人
私を助けてくれる異星人達――上原則子
アダムスキー型円盤、長時間出現――石井佳子
浅草上空に出現したUFO――堀江健一
UFO・宇宙・人間――G・アダムスキー

No.123　平成5年10月25日発行　¥700

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視――編集部
私を助けてくれる異星人(1)――上原則子
山梨県に出現した巨大UFO――編集部
エゼキエルはUFOを見た？――久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を見た――海瀬宏子
UFOと異星人の実態――G・アダムスキー
謎の古代マヤ遺跡とUFO――久保田八郎

ことの三つだということになるわけですか？

ア　まあ、そんなところでしょう。とにかく偏らないことが大切です。人生のあらゆる領域を可能な限りニュートラルな状態に保つことです。そうすればそのニュートラルな状態を通じて生命があなたの心に流れ込みます。さもなければ、あなたは固定的なルールやアイデアによって、心に厚い壁を築いてしまいます。それでは、いかなるものもそこを通過できません。

二つの真実と二つの愛がある

問　愛に関してはどうなんですか？

ア　愛という言葉は、誤って用いられることがとても多い言葉です。でも、これからお話しすることを理解すれば、愛は自動的に流れ始めます。

　愛という言葉自体がとても混乱を招きがちな言葉だと言えます。なぜならば愛には二つのタイプがあるからです。二つのタイプの真実と、二つのタイプの愛が存在しています。この宇宙の生命を支える宇宙の真実が存在しています。そして人間の感覚器官が創り出す、もう一つの真実があります。感覚器官を喜ばせる真実が、ほとんどの人間にとっての真実です。宇宙の真実は感覚器官の真実とは全く異なったものです。なぜならば、宇宙の真実は感覚器官や人間をえこひいきしたりするものでは決してないからです。感覚器官を満足させる人間の真実は宇宙の真実とは全く異なるものです。それは愛に関しても言えることです。

　聖書にこんな記述があります。

「ここに、自分が持っているもののすべてを投げ出した男がいる」

　その行為は慈善と呼ばれています。慈善は真の愛の現われです。しかし、我々が一般に愛と呼んでいるものは、そうではありません。

　さらに聖書は、「彼はすべてを投げ出したかもしれない。他の者を生かすために命さえ手放したかもしれない。しかし、もし彼に慈悲深さがなかったならば、彼のその行為は、彼にいかなる利益ももたらさない」と語っています。

　さて、それはどういう意味なのでしょうか？　答えはこうです。その男の行為の背後には特定の思惑が存在していたかもしれません。そのとき彼は、「自分は、他の人々のためにできるかぎりのことをすることで、とても良いことをしている」と考えていたかもしれません。さらには自分が行なった良いことに対する見返りを期待することまでしていたかもしれません。わかりますね？　もしそうだとしたら彼はそのとき真の意味では良いことなど全くしていなかったことになるんです。そんな思惑を起こした時点で、すでに彼の行為は慈善などではなくなっているんです。彼は報酬を期待しています。たとえその報酬が天国でもたらされるものであれ、他のどこでもたらされるものであれ、全く同じことです。

　それは決して真の愛ではありません。それは、たとえ周囲にはどんなに気高い行為に見えたとしても、単なる利己的な行為に他ならないんです。しかし、良いことを、見返りを何一つ期待しないで、「それを行なうことが生きることだ」という意識で自然に行なったとき、皆さんは真の愛を示したことになります。それは、自然な行為として、当たり前のこととして、淡々と行なわれたときに初めて慈善と呼ばれてしかるべき行為になるわけです。そしてそれこそが、宇宙が我々に示してくれている愛なのです。

（以下次号）

編者注＝アダムスキーがプラス思考のみに徹するなと言っているのは、がむしゃらにプラス面だけにとらわれて意地を張るなという意味に解釈される。

　基本的には願望が実現したイメージを描きながらも、柔軟なニュートラルな態度を保って前進することを示唆しているようである。したがって、彼はプラス思考そのものを否定しているのではなく、頑固な人間になるなという意味で忠告していると思われる。他人のマイナス面も直視して、それに同情することも含まれるだろう。これが真実の愛だと説いているようだ。♀

▲1952年11月20日、カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯で、アダムスキーは金星の円盤型UFOから降り立った金星人と劇的な会見をした（矢印の場所）。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」に述べてある。

撮影／久保田八郎

日本ＧＡＰへのご案内

日本ＧＡＰ　これはGet-Acquainted Programの略称で「ジーエイピー」といいます。これは本来の意味では「知り合いになる」ですが、それをさらに拡大解釈して「知り合いになって知識を伝え合う」という意味に用いています。つまり私達がもっているＵＦＯや宇宙の問題に関する知識を、知っている人に伝えようという活動を意味します。このＧＡＰは昔、アメリカのコンタクティーであったジョージ・アダムスキーが創始したもので、彼が存命中は世界にＧＡＰグループが10数カ国にわたって設立されていましたが、彼の没後は数カ国だけになりました。その中で最も活発に活動を続けているのは「日本ＧＡＰ」です。創立者で会長である久保田八郎が、1953年にアダムスキーの最初の体験記「空飛ぶ円盤は着陸した」を読んで非常な感銘を受けてからアダムスキーと文通を開始し、その後、彼の二番目の書物「宇宙船の内部」をみずから翻訳し出版して以来、アダムスキーと文通によって交友を続けるうちに、彼の要請により1961年に日本ＧＡＰを創立して以来、現在まで存続しました。したがって今年で創立35年になります。以来、日本ＧＡＰはアダムスキーの言説を中心に、ＵＦＯ問題の科学的研究みならず、彼の説く宇宙哲学の探求と実践を続けてきました。現在会員は約1600名、わが国トップクラスのＵＦＯと宇宙哲学の研究団体として海外のＵＦＯ研究界でも知られています。久保田会長はデンマークやアメリカのワシントン市でアダムスキー問題と日本ＧＡＰに関して講演を行なっています。

日本ＧＡＰの活動　本部は東京都江戸川区本一色1-12-1-511ですが、組織としては全国に16支部があり、それぞれ団結して活動を展開しています。

①専門誌の発行　本部は１年４回（１、４、７、10の各月）専門誌「UFO contactee」誌を発行して、これを全国の会員に送付します。全国の少数の書店にも直販で出していますが、入手が困難な地域が多いものですから、会員として入会されると本部から直送します。

②月例セミナー開催　東京本部と地方支部は毎月独自の会場で月例セミナーを開催して、まじめにＵＦＯや宇宙問題、宇宙哲学等の研修を行なっています。会場と日時については本誌巻末の案内欄をご覧下さい。特にアダムスキーの宇宙的な哲学は人間の真の生き方に対する指針として私達は最高の教えとみており、これを重視して研鑽を積んでいます。現在テキストとしては新アダムスキー全集第３巻「生命の科学」を用いています。この研究実践により、超能力開発、運命の好転、難病の奇跡的治癒、その他、願望の実現等の実例が多々あります。ただし宗教とは一切無関係でして、あくまでも精神世界探求の団体です。この頃はアダムスキーが早くから唱道したイメージによる願望実現法や難病治癒法に関する書物が多種類出回るようになりました。こうして彼が正しかったことが次第に証明されつつあります。彼の宇宙的な体験や哲学に関しては、新アダムスキー全集全10巻が中央アート出版社から出ていますから、それをお読みになれば詳細がわかります。全集の広告は本誌に出ています。

③総　会　日本ＧＡＰは毎年秋季に東京で総会を開催致します。総会では会長または有識者が講演を行ない、終了後はホールで大夕食会を開催して、北は北海道、南は沖縄より全国から集まった会員がなごやかに交歓を行ないます。このＧＡＰ会員の集まりは常識豊かにして一種独特な純粋な雰囲気に包まれており、紳士淑女の集団をなしています。これは久保田会長の洗練された指導もさることながら、アダムスキー哲学の偉大さの影響です。善良にして宇宙的な人間になろうというのが私達の願いです。

入　　会　高校生以上なら誰でも入会できます。東京の本部宛に「入会案内書送れ」とハガキに書いてお出しください。案内書と専用の振替用紙を送ります。

①会　費　１年４回発行する専門誌「UFO contactee」の誌代として納入するだけです。この専門誌の１冊定価は¥900、送料¥240で、合計¥1140ですが、会員になれば会費（誌代）が１年分¥4300ですから、１冊ずつ買うよりも安くついておトクです。６回分＝¥6200、８回分＝¥8,000、10回分＝¥9,900と、回数が多いほど割安になります。これ以外に一切の義務はありません。寄付の強要や押し売りは一切致しません。

②「UFO contactee」誌　ご覧のようにこの専門誌は興味本位の低次元な記事を極力排除して、高次元なＵＦＯ問題、宇宙哲学的な記事のみを厳選して掲載します。特にコンタクト実話、ＵＦＯのカラー写真、ＵＦＯの重力場推進方式に関する画期的な科学論文がときどき載せられますし、超能力開発法、アダムスキーの雄大な宇宙哲学の講演内容の連載等、有益な記事が掲載されます。

③英文版 UFO contactee」誌　上記の専門誌以外に英文版「UFO contactee」誌を年１回発行しています。これは主として海外の研究家やＵＦＯ研究団体に送られますが、希望者には１冊¥500、送料¥190で頒布しています。現在No.11を刊行中です。

真実と疑惑について　私達はＵＦＯ問題のみならず一般の事象についても、どこまで真実なのかを見分ける必要が起こってきますけれども、ときとして疑惑の渦中に引き込まれて混乱し、自身を失うことがありがちです。ここにおいてこそアダムスキーが言うように、宇宙的なテレパシックな感知力が最重要になってきます。その線にそって私達は宇宙哲学の研究と実践を積み、テレパシックな感知力の開発を目ざしているわけです。有志の方はどうぞ私達の仲間にお入り下さい。あたたかくお迎え致します。

〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511　**日本ＧＡＰ**
TEL.03-3651-0958／郵便振替＝00140-2-35912

今年度総会、大好評

1996 GAP-Japan General Assembly was a Great Success thanks to Dr. Shioya

■九月二二日(日)
■機械振興会館

恒例の日本GAP本年度総会は、予告どおり九月二二日に都内港区東京タワー前の機械振興会館地下二階の大ホールで午後一時より開催された。今回は九五歳翁として名高い医学博士塩谷信男先生をお招きして、「大宇宙の無限の力による長寿健康法」と題する素晴らしいお話を二時間にわたって拝聴し、多大の感銘を受けた。

先生は九五歳とは思えない若々しい姿をお見せになったが、これは目を疑わしめるほどの驚異であった。お声もしっかりしており、一見、六〇歳代にしか見えない。いまだにゴルフを趣味にされるという信じ難いほどの体力と気力を保たれるのは、ひとえに先生の宇宙的な長寿哲学の具現化であり、精神と肉体との密接な関係をみずから立証された希有(けう)の哲人であるとお見受けした。

先生は超能力も駆使される方で、いろいろと珍しい体験を話されたし、また先生が開発されて多年実践してこられた「正心調息法」と名付けておられる一種の瞑想法も披露された。これは自分の全身が大宇宙の無限の力で生かされていることを実感するための方法であり、これが先生の驚くべき体力維持の源泉をなしていると力説された。

夜は六階のホールで大夕食会を開催。和気あいあいたる雰囲気の中を二時間楽しく過ごし、終了後は新橋駅前の料理店「天狗」にて二次会を開催、さらに盛り上がった。年一回の総会が言語を超えた意義を持つことをあらためて認識した。塩谷先生のご講演内容は本誌次号に掲載の予定。ご期待のほどを。

この日は台風17号の暴風雨により出席者数が例年より下回ったが雰囲気は真剣そのものであった。ずぶぬれで駆けつけた来会者各位と十数時間もかかって夜半に到着した大阪と福山両支部に満腔の謝意を表したい。（久保田）

塩谷先生ご講演録音テープの頒布
●カセットテープ一本　一二〇分
●定価二〇〇〇円・送料一九〇円
ご注文は日本GAP宛（代金後払い可）

◀久保田会長挨拶

◀講演中の塩谷先生

◀正心調息法を実習する来会者

◀大夕食会

撮影／西川　太

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

素晴らしい東京月例セミナー

兵庫県　宇野秀樹

先日は東京月例セミナーに出席させて頂きまして有難うございました。また楽しい夕食会では先生のそばに隣席させて頂き、大変光栄に存じます。

東京のセミナーには本年一月に続き、この六月で二回目の参加ですが、常日ごろより都合をつけて「出席したい」と願い続けていますと、不思議にも毎回突然出席できるようになります。その他にも不思議な事が起こり、スムーズに事が運びます。何かのご援助を感じずにはいられません。深く感謝する次第です。

東京本部月例セミナーの会場は六月より六階に変更された件、承知していましたが、会場に入ると、とても景色のよい、雰囲気のとても良い所だなと感じました。

いつもながらプログラムや進行の仕方も加藤さん（東京本部役員幹事）や津田さん（副幹事）のスムーズな運営で洗練され、篠さん（司会者）と津田典子さん（副司会者）の出席者の心をとらえた司会は聞く人の関心をひきます。遠藤さんの超能力開発練習も、とても解りやすく説明され、きっと参加者の超能力を引き出す良いチャンスを与えているものと思います。

ちなみに大阪支部の月例セミナーは先生の解説講義を中心に、ビデオ等で視覚に訴える方法で理解度を深めています。またこれと並行して平塚さん（大阪支部代表）のご指導で、平塚さんが過去から撮り続けられている上空の写真、円盤の隠れている雲の写真などをビデオに編集し、テレビ画面に映写して、全員がそれを見た上で、印象の起こし方、感じ方を体験し、まさにフィーリングとは何かを、言葉ではなく、各人のそれぞれの実感として身につくように実習を行なっています。

大阪では毎回二〇名をこえる参加者があります。皆さんはとても活気に満ちて楽しい会合になっています。各支部のメンバーは総会で久保田先生をはじめ、全国の会員の皆様と交流できることを心待ちにされていることと思います。

私は遠隔地に住みながら、心休まる活力と勇気の湧いてくる先生の開催される、この地球上で最高のセミナーに参加できること、またそのご縁に深く感謝しています。先生のご講義は何十年と聴かせて頂いています。しかし、いつも新鮮で創造性のある内容で、心の中が洗われて、地球上で学んでゆくために大切な基本的な心構えをいつも磨くことができます。僭越ながら、先生ご自身のたゆまぬご研鑽の結果が、拝聴する私たちの心の中にひびいてご教示頂いているものと受け止めている次第です。

私は通勤カバンの中には、いつもユーコン誌やその他ニューズウィーク誌、アダムスキー関係の本等を一緒に入れて持ち歩きますが、これらは体の一部のようになっています。今後の先生のご活躍と発展を心より祈っています。たいへん有難うございます。

最後になりましたが、東京月例セミナーの様子や夕食会での先生の楽しそうなご様子を平塚さんにお話し致し、先生からの伝言等も充分にお伝えしておきましたので、ご理解頂ければ幸せに存じます。

宇宙時代が始まったか

山梨県　清水　南

いつもご指導を頂きまして誠に有難うございます。またこのたびはご丁重なお手紙を頂きまして有難うございました。

久保田先生には長年絶大なパワーで活動を続けてこられたことは、私共会員にとりましては大変な驚きです。先生のご活躍により、アダムスキー問題もいよいよ一般の人々の関心の対象になる日も間近に迫っているということを最近では感じております。

その一つのあらわれとしての火星の生命体の件ですが、この時期になっての発表は、アダムスキー氏が伝えた宇宙問題のスタートラインとも言えるようなタイミングを感じます。やはりアメリカ政府におきましては、何か真の宇宙問題の公開をしなければならないような事情が出てきたということでしょうか。一国の科学研究の成果が発表されれば、他国も競って発表する機運も生まれましょう。

真の宇宙問題の情報公開はまだ少し先になると思われますが、どのような形で公開されるか、大変興味もあり楽しみでもあります。また月例会で火星の隕石についてお話等をお聞かせ頂ければ幸いに存じます。最後になりますが、塩谷先生のご講演により総会が大成功になりますようにお祈り致しております。

地球の万人の健康を願って

愛知県　宮崎雅子

先日はユーコン誌一三四号をお送り頂き、有難うございました。今回はロズウェル事件を追求する記事などで迫力があり、楽しく読ませて頂きました。もっともっと真相が解明されるようになれば、人々もUFOについて特殊扱いせず、正しい理解が始まる事と思います。

昨日の夕刊に小さな記事で「火星の隕石から生命体の痕跡が発見された」とかいうものが目につきましたが……。少しずつ情報を出していく兆候なのでしょうか。

また一三四号一九頁のアダムスキーによる「真の健康を保つ方法」という一九三〇年代に書かれた記事など、本当に先を見通している力といいますか、今まさに病人だらけのこの地球を表わしている文章に驚いています。

最近のO－157の感染の拡大についても、塩素などをいっぱいまき散らしても感染は減少しないように思いますが、人々の免疫力がどんどん低下している上に、環境汚染によって、いろいろな菌類が変化し、発生していると思います。また世の中にいろいろな食べ物があふれておりますけれど、生命エネルギーの強い食べ物は少なく、人工的に加工されたものほど、これが食べ物かと思われるような作り方をされているのが現実です。

そういう自分が食べないような食べ物を利益追求のためとはいえ、大量に生産し、社会にバラまくこと自体、作る人たちの意識、心のあり方が問題であり、O－157は私たちのあらゆる意識の反映だと思われます。

しかし原因がお肉だとか生野菜だとかカイワレだとか、いろいろですけれど、私たちの意識は別としても、やはり空気も水の汚染も深刻な原因であると感じております。この地球で水のことをもっともっと理解し、研究が進んだならば、水がキイポイントとしてこの地球を救う大きなエネルギーになるのではないでしょうか。まだまだ水の本質の部分を理解し、それらを応用する段階に達していないということでは……。

進化した惑星の人たちは水に対してどういう理解をし、どのように応用しているのか知りたいものです。

最後の頁の「アダムスキー講演」の連載記事はいつも楽しみですし、読みますと何か元気が出てきます。いつかこの地球もエゴとか競争のない多様性のままに、調和とバランスに満ちあふれた世界になるのだと想像することは、今この星の現実においてとても勇気が与えられます。

長々と書いてしまい申し訳ありません。アダムスキーがおっしゃっているように、「我々は自分たちの創

造物の奴隷になってはいけません」とは、あらゆることにあてはまると思います。

ユーコン誌一三四号に感動

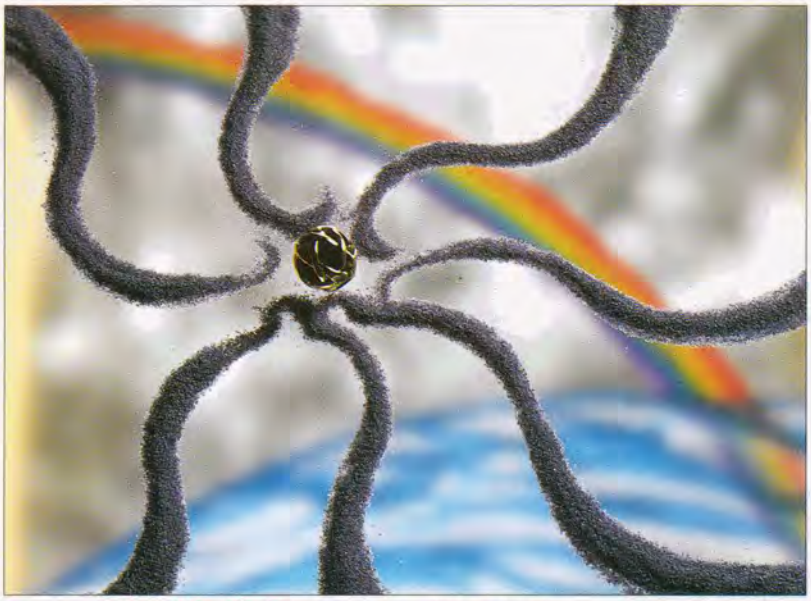
沖縄県　石野創太

私は「超英語勉強術」を読んで、有益な情報に満ちていることを知りました。それを読みますと、英語を日本語に翻訳することなしに英語を理解するためには、英和辞書でなしに、英英辞書を使用することの重要性を認識しました。

ユーコン誌一三四号を有難うございました。表紙のデザインは本当にきれいです。そして総会の予告の広告は、優美なフィーリングを放っています。

私は先生の記事「米政府が隠すUFO問題の驚異的真相」に感銘を受けました。それは混乱している研究界に正しい洞察力を与えるものです。

ユーコン誌と月例セミナーのカセットテープ等を通じて与えられる情報に厚く御礼を申し上げます。



●ヒーリング写真　撮影／金丸直司（日本GAP会員）
札幌のプロ写真家・金丸氏が創作したヒーリング写真。これをしばらくジッと見つめていると、自分の内部の生命力の高揚感がわきおこって、憂鬱な気分や不健康が解消される方向に向かうという。試してみては？

編者注

筆者石野氏は翻訳業。この投稿も英文で書かれていたものを翻訳したものです。右の「英英辞書を使用する云々」について、編者は英英辞書つまり英単語を英文で説明してある辞書（英米人にとっての国語辞典）の選び方について返書を出しました。英語を学ぶ方々の参考になろうかと思いますのでここで説明しましょう。

編者が英英辞書を選ぶ際には、英単語の「pretend（何々のふりをする）」という語の項目を見て、それが英文でどのように説明してあるかを見ます。非常にわかりやすい、またはわかりにくい解説等、いろいろありますが、編者が所有する英英辞書類の内、特に良いと思って愛用しているのは左記のものです。

「Oxford Advanced Learners Dictionary」これは日本語の題名では「オックスフォード現代英英辞典」となっており、一五八〇頁、定価三一八〇円。国内の発行元は左記のとおりです。

東京都千代田区神田神保町二－五
開拓社　TEL．03-3265-7641

この辞書は各単語の応用例文が豊富に出ているのが特徴です。もちろん日本語は全く見当たりません。したがって初学者にはすすめられません。初学者用の英和辞典の良いものは？　それは各自で選ぶしかないでしょうね。

右の英英辞典は必要なときだけ取り出して引くよりも常時手元に置いて小説を読むように読んでゆくのです。そして単語の応用例文（英文）をかたっぱしから丸暗記するのです。そうすれば凄い力がついてきます。

エゴとの戦いで勝利を

岐阜県　山本三恵子

こちら名古屋の月例セミナーでは毎月先生の講演テープを聴かせて頂いております。先生から以前にもまして、さらにリンとした気迫が感じられ、非常に啓発されます。新しい価値観が表から裏にひっくり返されるようにして構築される時代が、もう目の前といわれるこの変動の時期、一人一人の意識下にあった価値観が善悪を問わず浮上してくるような、そんな気がします。

私は宇宙的価値観を善とし、その反対を自己中心の価値観、つまりエゴととらえていますが、ひたすら善をなすべしと歯をくいしばっても、今のこの時期、以前より以上に力がいります。自己レベル最高の波動状態で対しながらも、他人のエゴ波動に同調し、あとで七転八倒します。

けれどこれはあくまで私の中の戦いなのですが、対外的アプローチに対して、逡巡が現われることが残念です。こんな私にとって先生の信念に対する断固たる姿勢には、ものすごい示唆と啓発を受けます。先生の宇宙的目的にむかわれる信念の強靭さ。その光が強ければ強いほど、あたりの影は濃いはず。こまごまし説明をいっさい抜きにして結論だけを発表された諸事項をみて、先生が内奥からの声に忠実に従われ、決断されることが感じられるのです。

アダムスキーの諸活動の姿勢をお手本にするのはもとよりですが、先生の信念と意思力は、間近な導きとして、今現在に生かしてゆくつもりです。

ただ今私は自分のエゴとの闘いの真最中です。この闘いはまだ始まったばかりなのですが、今月の名古屋支部月例セミナーで「こんなに苦しいのなら、GAP哲学を学ぶんじゃなかった」なんて発言して、みんなと一緒に笑ってしまいました。今後もご指導のほどをお願い致します。

●ユーコン誌134号に掲載された冒頭記事に出てくるロズウェル事件のロボット宇宙人解剖状況を記録したビデオを発売中。83分のカラーと白黒からなる実写画面は1947年7月の大事件を克明に描写。UFO研究者必見。
●ハイファイステレオ、VHS、標準サイズ、1巻、定価¥9,800 送料¥700　発売元＝ポニーキャニオン社、〒104　東京都中央区入船2-1-1、TEL.03-3555-6671

George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳

全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判

超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ＵＦＯや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。ＵＦＯと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

❶ 第２惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価＝1.980円

ＵＦＯ研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

❷ 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他） ●192頁●定価＝1.300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

❸ 21世紀／生命の科学 ●208頁●定価＝1.300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第５巻の続編として必読のテキスト。

❹ ＵＦＯ問答１００ ●216頁●定価＝1.300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のＵＦＯ関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のＵＦＯ研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。ＵＦＯ研究者の素晴しいガイドブック。

❺ 金星・土星探訪記 ●380頁●定価＝2.400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第２部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

❻ ＵＦＯの謎 ●262頁●定価＝1.980円

ＵＦＯの推進原理をはじめ、聖書とＵＦＯとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第２部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国ＧＡＰ網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のＵＦＯ研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第１巻の続編。

❼ 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価＝1.030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド（心）と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第５巻、６巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

❽ ＵＦＯ・人間・宇宙 ●370頁●定価＝2.400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本ＧＡＰの機関誌に掲載された、アダムスキーのＵＦＯと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第２部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

❾ ＵＦＯの真相 ●320頁●定価＝1.980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

❿ 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価＝1.300円

厖大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO－宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価＝2.800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭ＵＦＯ研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したＵＦＯ問題の真相。月・惑星探査結果に関するＮＡＳＡ（米航空宇宙局）の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、ＵＦＯの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

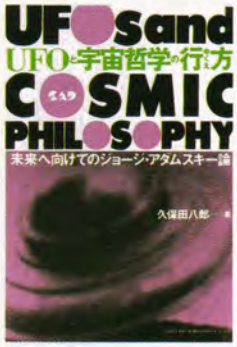
GAP 中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL＝03-3561-7017／郵便振替＝00180-5-66324

＊新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。
＊定価は、全て税込みです。

UFOと宇宙哲学の行方(ゆくえ)

●久保田八郎著　定価1650円　送料310円　四六判・288頁

本書はわが国ＵＦＯ研究界の第一人者・久保田八郎が「UFO contactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編纂したもので、ＵＦＯ問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。２部構成になっている本書は、まず第１部でＵＦＯと異星人に関する様々な問題について著者の見解を示し、続いて第２部では、アダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。ＵＦＯを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFOと異星人の真相

●久保田八郎著　定価1650円　送料310円

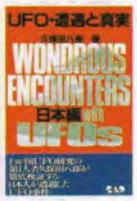
四六判・256頁

ＵＦＯ研究の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにＵＦＯの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するＵＦＯ関連情報の真偽にも迫るＵＦＯを研究する人の必携の書です。

UFO・遭遇と真実―日本編―

●久保田八郎著　定価1500円　送料310円

四六判・264頁



日本で発生した驚異的なＵＦＯ事件を８件選び、わが国ＵＦＯ研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編纂した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本ＧＡＰでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。

中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
ＴＥＬ＝03-3561-7017／郵便振替＝00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No.11 日本GAP

Ｂ５版／12頁／コート紙使用／￥500　送料￥190／５冊まで￥270／６冊以上￥390　（NO.１～３は品切れ）

日本GAP発行英文版「UFO contactee」誌は、たんなる興味本位や猟奇趣味を排した理想主義的なUFO専門誌として、世界のUFO研究団体や個人研究家から絶賛をあびています。多数のUFO専門誌はオバケ宇宙人、誘拐事件、その他恐怖心をあおるような記事に終始していますが、日本GAPは日本語版、英文版とも地球世界の未来に大いなる希望をもち、人間の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を満載しています。英文版第11号には1994年度総会におけるミシェル・ジルガー氏の英語講演の全文を主体に、きわめて有益な記事と写真を流麗な英文で掲載。ご注文は代金後払いで結構です。

編集後記　§§§

●米政府も人間の集団であり、しかも世界平和のための警察官を自負しているようですからUFOのごとき重大問題の真相を簡単に洩らすわけはありませんが、本号では海外から殺到する最新の資料をもとに可能な限りの探索を試みました。その成果が「米政府が隠すUFO問題の驚異的真相」です。それにしても英語の重要さと言語としての英語の難解さを身にしみて感じます。しかしやはり英語は世界語になるでしょう。

●アダムスキー問題は真実以外の何物でもなかったという結論は遠からず権威筋から出るでしょう。その兆候はほのかに見えています。一般に出回らない極秘情報類でそれがわかるのです。

●一時期米国の某団体がコンピューターでUFO写真の真偽を判定しており、「科学」という言葉に弱い大衆は文句なしにその結果をウノミにしていました。しかしコンピューターは神様ではありません。遠藤氏が見事に欺瞞性をあばいています。

●本誌掲載のUFO写真類を無断で複写して使用すれば違法行為ですからご注意下さい。

●UFOの目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料等を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアーにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

日本ＧＡＰ専門誌・季刊　秋季号
UFO contactee　134号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本ＧＡＰ
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-501
☎03-3651-0958
振替　00140-2-35912
一九九六年七月二五日発行
定価九二七円（本体九〇〇円）・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日　　時	会　　場	会費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※本年12月のみ会場を地下３階の第２研修室に変更。 ※来年（97年）１月のみは第２日曜日の12日に臨時変更。当日は全員記念写真撮影（写真希望者は送料1000を別納）。 ※終了後毎回別会場で夕食会。会費男￥3000、女性￥2000。	港区芝公園３丁目５－８「機械振興会館」６階67号室。 ☎03-3434-8211、JR 浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約８分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-3651-0958	会場費 ￥1000 セミナー受講料 ￥1500 計￥2500	1:00→1:40　会員の講演。 1:45→3:15　久保田会長の能力開発講義「生命の科学」 3:25→5:00　超能力開発練習／近況報告／ビデオ映写／質疑。 ※日本ＧＡＰ会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムスキー全集、ＧＡＰグッズ等を販売。
大阪支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町４丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JR または阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-411-2367	￥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	新潟市東万代町９「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR 新潟駅より徒歩５分。 連絡先＝星　富治夫　☎02579-2-5562	￥500	同上
名古屋支部	毎月第２日曜日　午後1:00→4:30 ※本年12月のみ１日(日)に臨時変更。	名古屋市中区金山１丁目５番１号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141(代) JR 東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩５分。 連絡先＝林　国宣　☎0586-45-6468	￥500	同上
山形支部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森１丁目１－１「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー４分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	￥500	同上
札幌支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先＝高野省志　☎011-783-6393	￥500	同上
旭川支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	旭川市五条４丁目「旭川ときわ市民ホール」３Ｆ　302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀　☎166-61-0044	￥500	同上
沖縄支部	毎月第４火曜日　午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数１－６－５早川宅 ☎098-890-1324 連絡先＝里　孝人　☎098-835-3991	￥500	同上
秋田支部	毎月第２日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園１－２「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	￥500	同上
横浜支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	横浜市中区万代町２－４－７「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551　JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩３分。 連絡先＝清水　正　☎03-5995-6038	￥500	同上
茨城支部	毎月第４日曜日　午後1:20→5:00	水戸市梅香１－２みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎029-273-1903	￥300	同上
長野支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	塩尻市大門７番地「塩尻総合文化センター」第１会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先＝博田文喜　☎0264-24-3012	￥500	同上
紀南会	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日１番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー　☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩５分、新宮市役所隣。 連絡先＝松口幸之助　☎0735-34-0384	￥300	同上
南九州支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎２－３－１「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先＝曽我部勇人　☎0992-53-2315	￥500	同上
高松支部	毎月第３日曜日　午後1:30→4:30 ※日時は変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町１－３－５「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463　JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先＝関　高明　☎0875-72-2698	￥500	同上
伊豆支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20－５「三島市民文化会館」第３会議室。 ☎0559-76-4455。　三島駅より徒歩３分。 連絡先＝高梨十光　☎0558-72-7832	￥500	同上
福山支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:00 ※日時は変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内１－３「びんご荘」 ☎0849-25-3977　福山駅から徒歩３分。 連絡先＝棗田（なつめだ）　雅則 ☎0847-52-6306	￥500	同上

オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm（不許複製転載）

¥1,000　送料¥130

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の４層の放射状ゾーンは人間のマインド（心）の発達状態をあらわしています。人間のマインド（心）は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので４層になっているのです。

¥500　送料¥80

ＥＳＰカード〈超能力開発用〉

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。５種類の図形カードが各５枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130　（２～５個）¥190

テレフォンカード

日本ＧＡＰ特製テレフォンカードの第８弾。1954年２月15日、イギリスのランカシャー州のコニストンで、当時13歳のスティーヴン・ダービシャー少年が撮影したアダムスキー型円盤。詳細は新アダムスキー全集第１巻「第２惑星からの地球訪問者」40頁に出ています。

¥1,500　送料10枚まで¥80

ＧＡＰキーホルダー

日本 GAP がデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識とともに」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長９cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900　送料130

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000　送料４個まで130

ブックカヴァー

主として新アダムスキー全集用に作られたカヴァーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200　送料¥190　５枚まで¥270

ＧＡＰシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

１枚に大小５個１組　**¥200**　送料10枚まで¥80

新アダムスキー全集　訳・著者　久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本ＧＡＰでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は１冊310、７冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先　上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替か現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品当着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本ＧＡＰ　振替　00140-2-35912
☎03-3651-0958

日本ＧＡＰ能力開発カセットテープ

●能力開発テープ「生命の科学」¥1500
送料１本¥190　計¥1690

日本ＧＡＰ東京本部が毎月開催する月例セミナーで久保田会長が97年３月まで行なう「生命の科学」解説講義と質疑応答を録音したテープ。雄大な信念と勇気を起こさせる講演をぜひお聴き下さい。８月より業者の製作により音質とラベルが本格化しました。従来はテープを①と②の２本セットにしていましたが、８月より１本のみで頒布します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約10日間を要します。

日本ＧＡＰビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー　全１巻　¥3000
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本ＧＡＰ総会　全２巻各¥3000
〈内容〉毎年開催される日本ＧＡＰ総会を完全収録。（1989年度分から在庫あり）。

●日本ＧＡＰ海外研修旅行　全１巻　¥3000
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。（1989年度分から在庫あり）

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演（英語）。　全１巻　¥3000
〈内容〉1995年９月８日、久保田会長が英語で長時間講演したためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ１本¥300、２本以上３本まで¥700。

申込先　ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。（ビデオの代金後払いは不可）
〒162　東京都新宿区富久町36-18　富久マンション103
伊東芳和　振替　00140-8-13811　☎03-3351-9526

UFO contactee 35号 一九九六年一〇月二五日発行 発行所 日本GAP 〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 郵便00140-2-35912 定価九二七円(本体九〇〇円) 送料二四〇円

波動は転写できる！

この素晴らしい事実をあなたに！

● 個別波動転写機

APOLLO
BIO WAVE CONVERTER

アポロ

■光のサイクロンインジケーター付き
超軽量520ｇエルゴデザイン
4段階ワンタッチフルオート転写

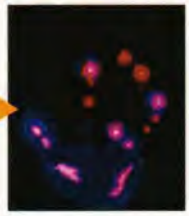
■波動の世界のパスポート。これで、あなたは変わる。

物質の個別波動をあらゆる物に転写できます。UFOの写真から出る波動、クリスタルの波動、能力者の写真の波動、星の写真の波動、ミネラルウォーターの波動、これらを左側に置いてあなたのキーホルダーや、手のひら、化粧品、ハンカチ、ブレスレット等に転写してみてください。アダムスキー氏の写真（人物、UFO）をあなたのお気に入りのペンダントに転写しても楽しいでしょう。今まで高価であった波動転写機の高級最新バージョンをリーズナブルな価格でお届け致します。誌上最強のこのチャンスをお見逃しなく！！

●自分自身の波動を整える。

波動転写前

波動転写後



■波動転写計測データ

市販ミネラルウオーター（フランス産）に免疫波動+21の日本産ミネラルウオーターの波動を転写した実験。

	免疫	アレルギー	胃	皮膚	自立神経
転写前	+4	0	+10	+8	+2
転写後	+21	+21	+21	+21	+21

アポロ誌上特価ローン

◎6.100円×23回初回のみ7.341円（税込み）
◎一括払い価格127.720円（税込み）

■お申し込みは今すぐおはがきか、お電話で！

●お支払い方法は便利な代金引換払いか、下記口座にお振り込みください。ローンは自動引き落とし可。

三和銀行高田馬場 支店普通3733990
(株)アイカ

◎商品到着後7日以内は返品自由。送料はお客様ご負担でお願いします。◎ご使用後の返品はご容赦下さい。

大好評

宇宙に満ちるプラズマと
良質波動をお届けする

パラ・スバッハ

~~32,000円~~→15,800円（税別）

★残り僅か

●プラズマ回路内蔵
ダイナミック型
ステレオヘッドフォン
パラスバッハPS2348
（本体、ステレオ金メッキ変換プラグ、保証書）

株式会社アイカ
〒171東京都豊島区池袋2-43-3田村ビル5F
TEL03-5992-4661
FAX03-5992-6461（24時間受付）

●(株)アイカでは業界最新、最安値の波動転写装置、全ての音をα波誘導音に変える画期的な波動バイオメディア商品を多く取り扱っております。興味のある方はお問い合わせください。

●名前 印
●生年月日
●住所
●電話
●お支払い方法
アポロ・パラスバッハ を注文します。

切手
〒171
豊島区池袋2-43-3
田村ビル5F
株式会社アイカ
日本GAP係